

2021

Peanut・packet ルーム活用 (和文チャット体験)

チャット体験のお相手を頂いた JA5CU/1 渡部さんに深く感謝いたします。

Shu JA3GQJ

2021/08/18



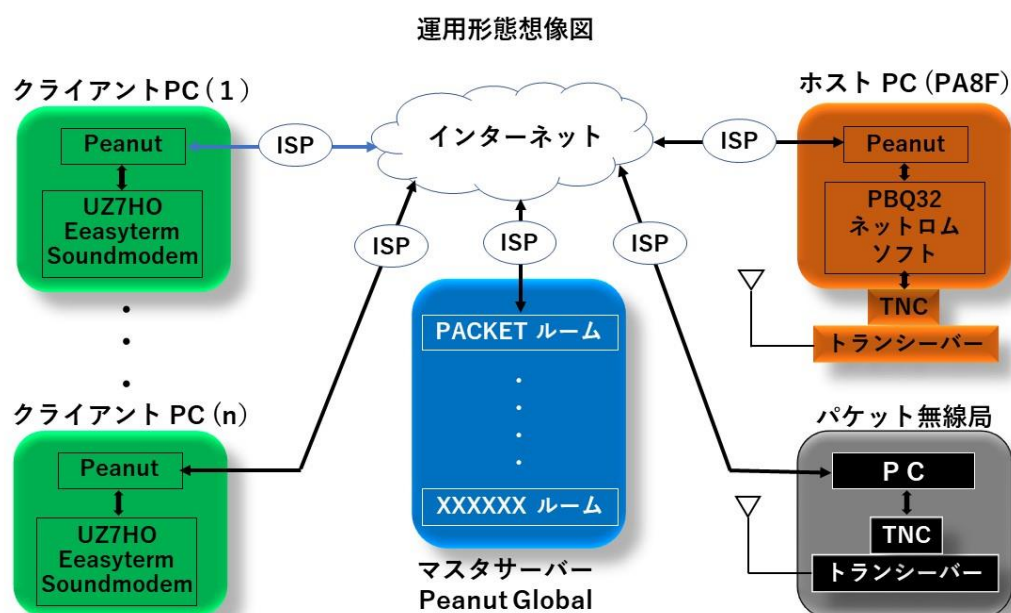
目 次

1 Peanut packet ルームでの運用形態	2
1.1 Peanut のインストール	3
1.2 Peanut の PTT 制御関連ソフト	3
1.2.1 仮想シリアルポートドライバのインストール	3
1.2.2 仮想サウンドカードのインストール	4
1.3 パケット用ソフトのインストール	4
1.3.1 EASYTERM と SOUNDMODEM のインストール	4
1.4 PEANUT の peanut.ini ファイルの編集	5
2 チャットを体験する	6
2.1 Peanut を起動する	6
2.2 EasyTerm と Soundmodem を起動する。	7
2.3 ノード局経由のチャット	8
2.3.1 ノード局へ接続する	8
2.3.2 欧文チャット	10
2.3.3 和文チャット	12
2.4 直接チャット	13
2.4.1 相手局に接続する	13
2.4.2 欧文チャット	14
2.4.3 和文チャット	15
3 チャットを終了してパケットを終了する	16
● APPENDEX 1 - Peanut のインストール	18
● APPENDEX 2 - バーチャル COM ポートのインストールと設定	25
● APPENDEX 3 - 仮想サウンドカードのインストール	34
● APPENDEX 4 - パケット用プログラムのインストール	40

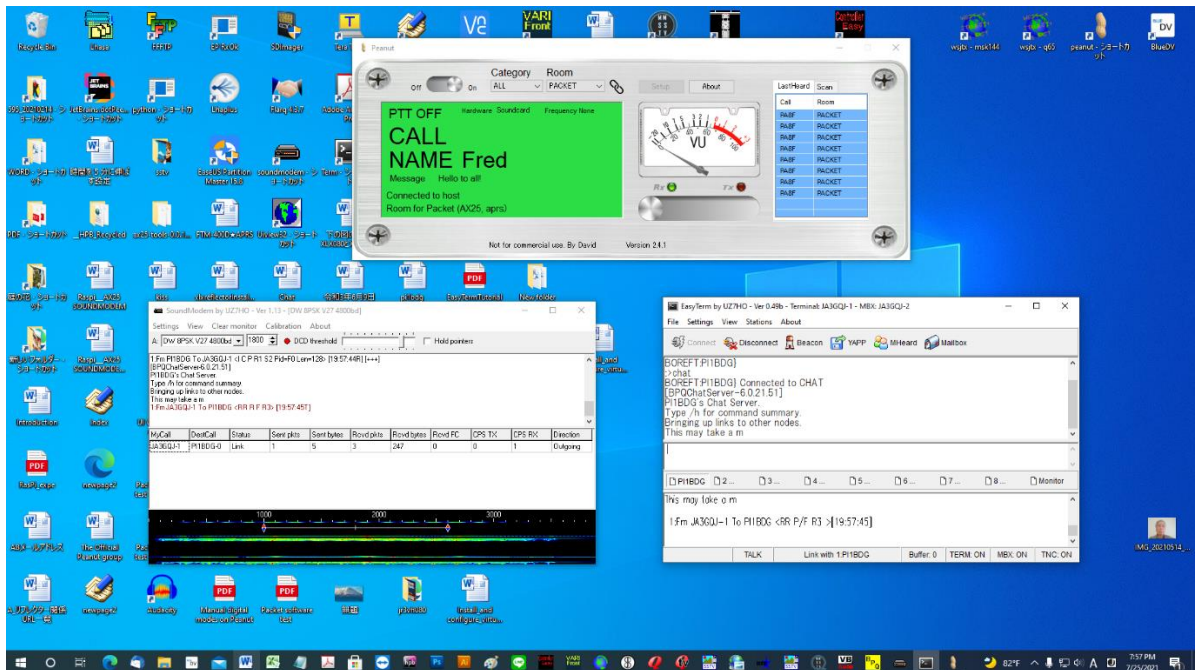
1 PEANUT PACKET ルームでの運用形態

Peanut の packet ルームには、チャットや BBS 機能等を備えた自動応答ノード局（ホスト局）PA8F が運用されています。これを、Windows10 で外付けの TNC（ハード）は使用せず、ソフトだけの構成でチャットを体験しました。必要なものは次のとおりで、パケット関連ソフトの設定は無線機用そのものです。トランシーバーの代わりにするのが Peanut ですが Peanut の packet ルームのノード局は各地の無線局にもつながっているようです。

- OS が Windows 10 のパソコン (32-bit or 64-bit)
- Peanut (Version2.4.1)
- UZ7HO soundmodem と Easy term
- バーチャル COM ポートドライバ
- バーチャルオーディオケーブル（仮想サウンドカード）
- 圧縮ファイル解凍ソフト (例えば Lhaplus)

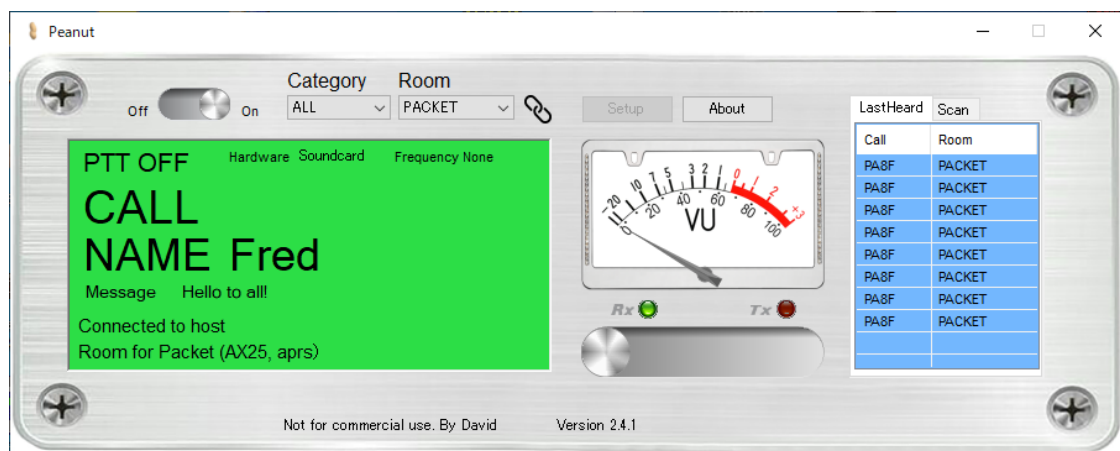


クライアント PC デスクトップのスクリーンショット



1.1 PEANUT のインストール

巻末の APPENDEX 1 を参照して Peanut をインストールします。



1.2 PEANUT の PTT 制御関連ソフト

パケット用ソフト EASYTERM から Peanut の PTT を制御する仮想シリアルポートドライバ `comportnullmodem` および Peanut とパケット信号をやり取りする仮想サウンドカード `VB-CABLE Virtual AUDIO Device` をインストールします。

1.2.1 仮想シリアルポートドライバのインストール

巻末の APPENDEX 2 を参照して仮想シリアルポートドライバ「`comportnullmodem`」をインストールします。インストールしたら二つの仮想 COM ポートが出来ます。COM ポート番号

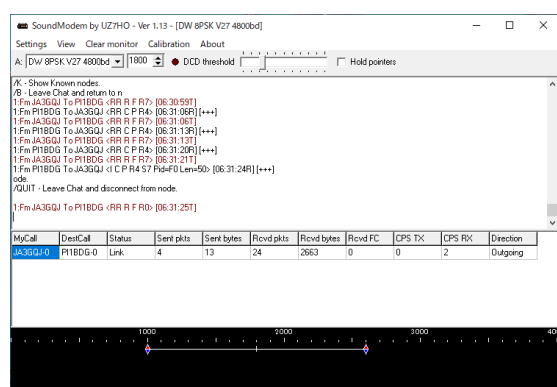
は個々のパソコンによって異なります。私の場合は COM3,と COM4 が出来ました。COM3 はサウンドモデムの制御に使用。（巻末 APPENDEX 4 の SoundModem:設定参照）
COM4 は Peanut の PTT に使用。（1.4 項 Peanut.ini ファイル編集参照）

1.2.2 仮想サウンドカードのインストール

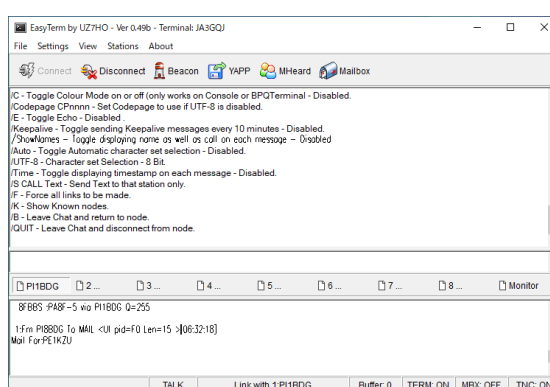
巻末の APPENDEX 3 参照して、VB-CABLE Virtual AUDIO Device をインストールします。
インストールが終わったらパソコン内蔵のサウンドカードに代わって仮想サウンドカードの
ループバックが出来上がります。（スピーカー回路とマイク回路が内部で結合されるので外
付けのマイクロホンが使えなくなる）Peanut の「Sound Card」設定でこの仮想サウンドカー
ドが選択されていることを確認します(巻末 PPENDEX 1 参照)。

1.3 パケット用ソフトのインストール

パケット用ソフトには EASYTERM と SOUNDMODEM をコンビネーションで使用します。
EASYTERM は、AX.25 パケットアマチュア無線通信用に設計され、開発者の UZ7HO によって
無料で配布される Windows ベースのプログラムで、キーボードを使ってチャット等のパケ
ット通信を行います。AX.25 モデムプロトコルが含まれていないので、代わりに、TCP / IP
を介して、もう一つのソフトである SOUNDMODEM（同じ開発者 UZ7HO が無料で配布）と
インターフェイス接続（EASYTERM と SOUNDMODEM の設定でお互いを認識させる）をして
コンビネーションを構成します。



Soundmodemu



easyterm

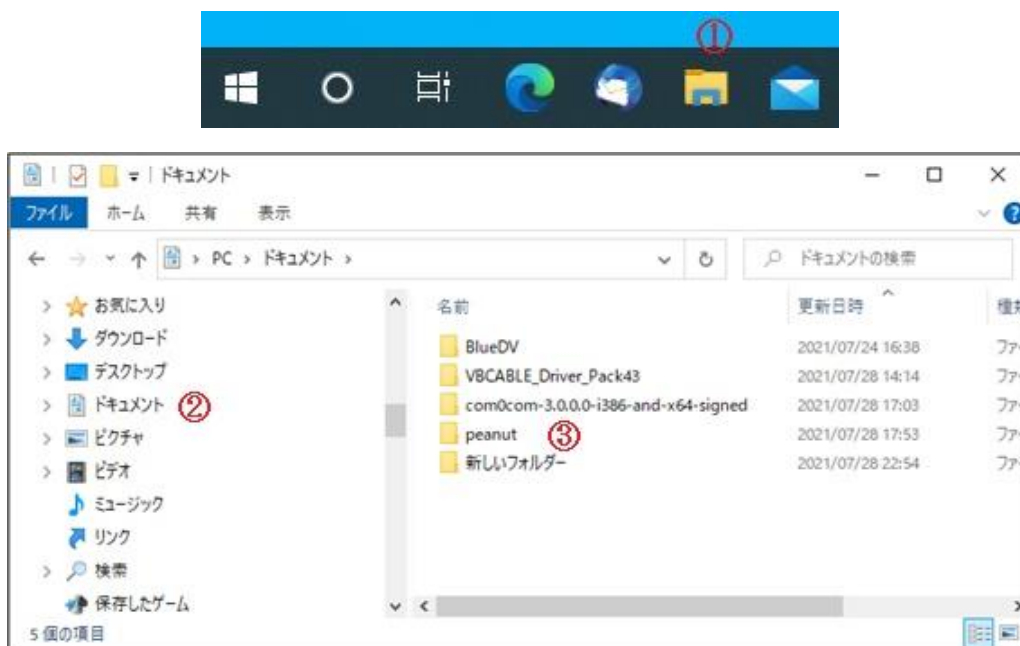
1.3.1 EASYTERM と SOUNDMODEM のインストール

巻末の APPENDEX 4 を参照してインストールとお互いのコンビネーションを構成する設定
をします。

1.4 PEANUT の PEANUT.INI ファイルの編集

パケット用ソフトから Peanut を PTT 制御するためには peanut.ini ファイルの編集が必要です。
インストールが終わった Peanut のメインフォルダのルートは c : \ Program Files \ Peanut
\ Peanut ですが、「ドキュメント」フォルダに別の Peanut フォルダがあります。

- ① デスクトップのタスクバーの「ファイルエクスプローラ」 (フォルダタイプアイコン) をクリック ⇒



- ② 「ドキュメント」フォルダをクリック ⇒

- ③ Peanut フォルダをクリック ⇒

- ④ 「peanut.ini」をクリック ⇒



- ⑤ peanut.ini が開く (メモ帳で) ⇒ 次のように編集する。

開いた peanut.ini ファイルに次の赤い文字の行を追加する。

[GENERAL]の myCall は自分のコールサインに変える。

[SERIALPTT]の **serial** はインストール（1.4 仮想 COM ポートドライバのインストール参照）した二つの仮想 COM ポートの番号の大きい方にする。

私の仮想 COM ポートの番号は COM3 と COM4 なので **serial=COM4** になっている。

[GENERAL]

myCall=JA3GQJ

.

----- 途中省略 -----

.

[SOUNDCARD]

recdevice=0

playdevice=0

[SERIALPTT]

CTS = Peanut PTT

RTS = Squelsh frm Peanut

enabled=1

serial=COM4

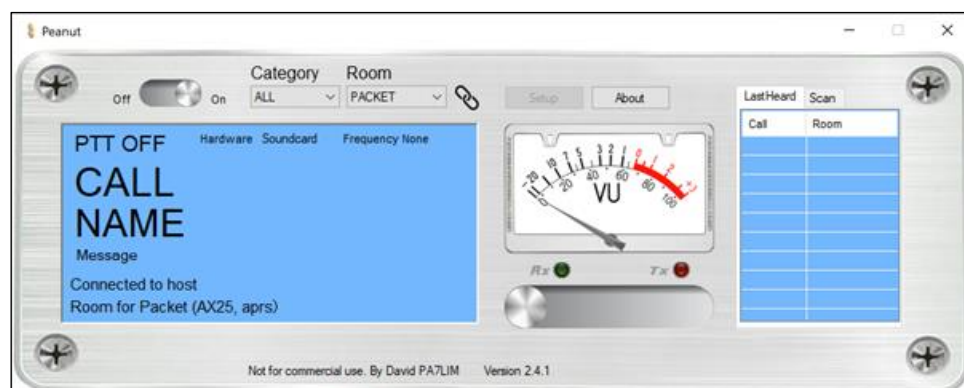
invertRTS=1

invertCTS=1

2 チャットを体験する

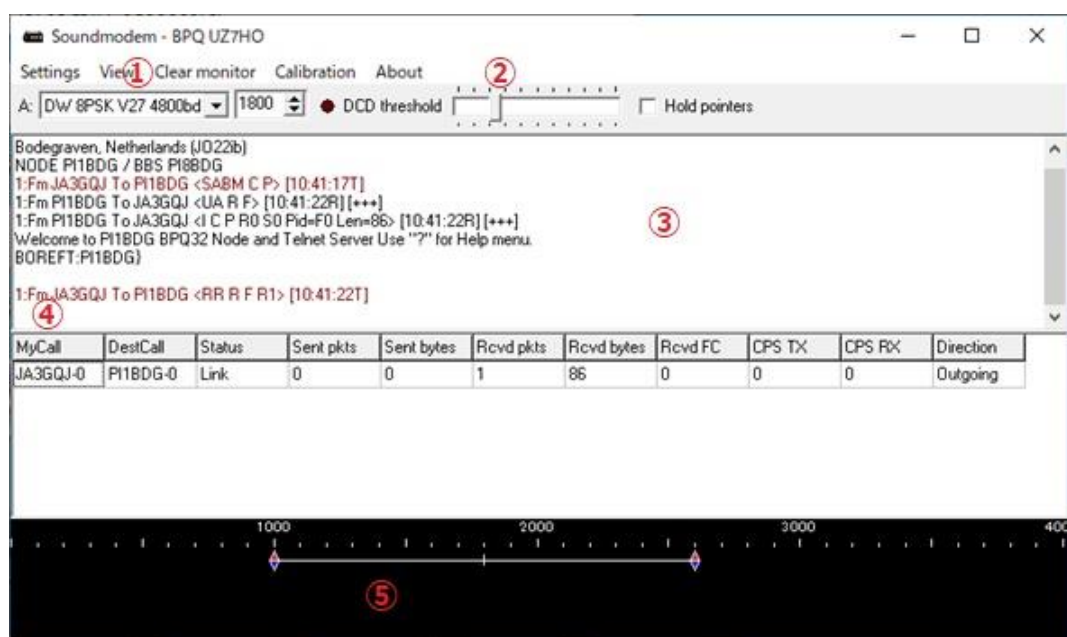
2.1 PEANUT を起動する

Peanut を起動して packet ルームを選択する。

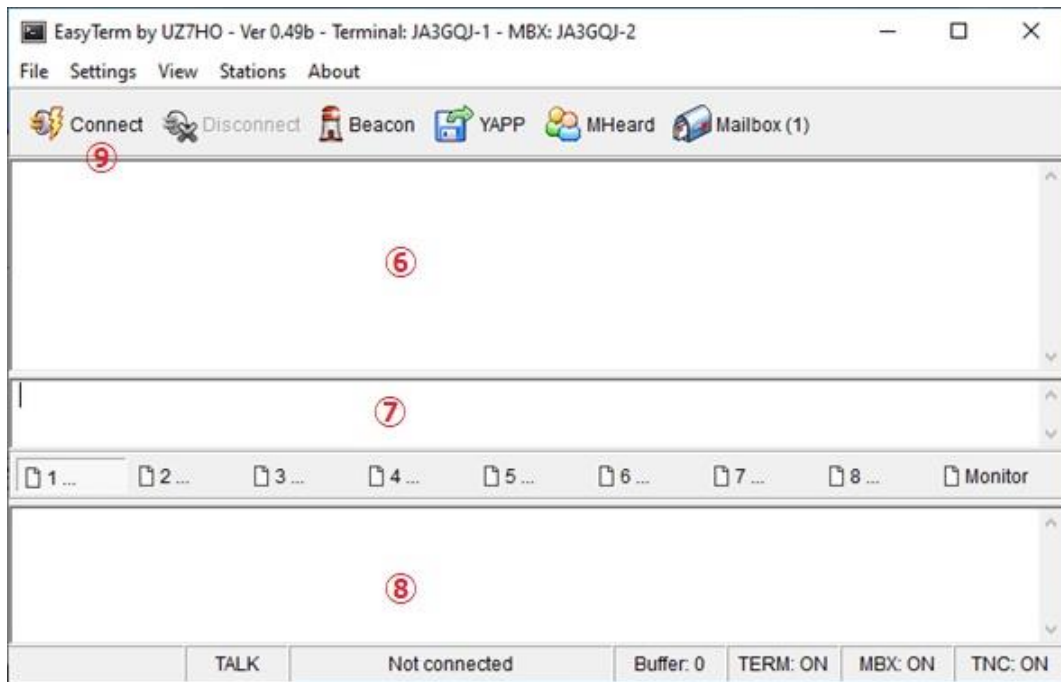


2.2 EASYTERM と SOUNDMODEM を起動する。

それぞれのデスクトップアイコンをクリックして EasyTerm と SoundModem を起動します。SoundModem のデコーダステータス①には 4 ページの 1.4.1 項で設定したモードが表示されています。②は DCD のスレッシュホールドレベル(スケルチのようなもの)を調整するスライドバーです。このスレッシュホールドレベルはトランシーバーのスケルチとの兼ね合いで調整するそうですが Peanut の場合はそれがありません。そして、トランシーバーの場合は過変調によるスプラッターをなくすための注意が必要ですが Peanut でも VU メータの針が 60 を超えないように仮想サウンドカードのスピーカーとマイクのゲインを調整します。モニターウィンドウ③には Tx パケットとデコードされた Rx フレームが表示されます。



次の EasyTerm 画面の上部のウィンドウ⑥は、モニタードロップダウンボックスで、トラフィックをモニタリングします。中央のウィンドウ⑦はコマンドの入力欄で、下部のウィンドウ⑧は接続された出力が表示されます。

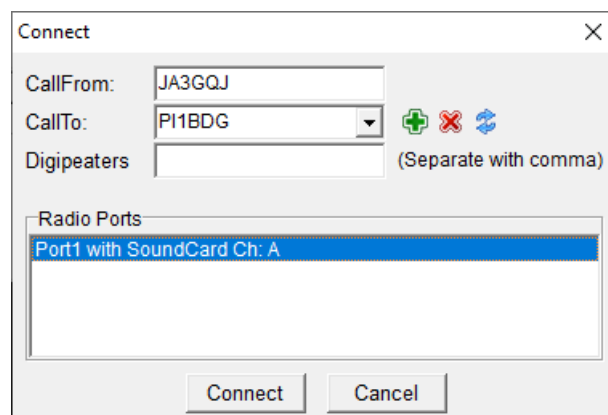


2.3 ノード局経由のチャット

パケットルームの PA 8 F 局の自動ステーション (PI1BDG) に接続すると、自動応答が返され、通常は可能なコマンドのリストが取得できます。そして、この局には各地の無線局がリンクされているらしく W、VK、G、VE、LU などの局とチャットが出来ます。

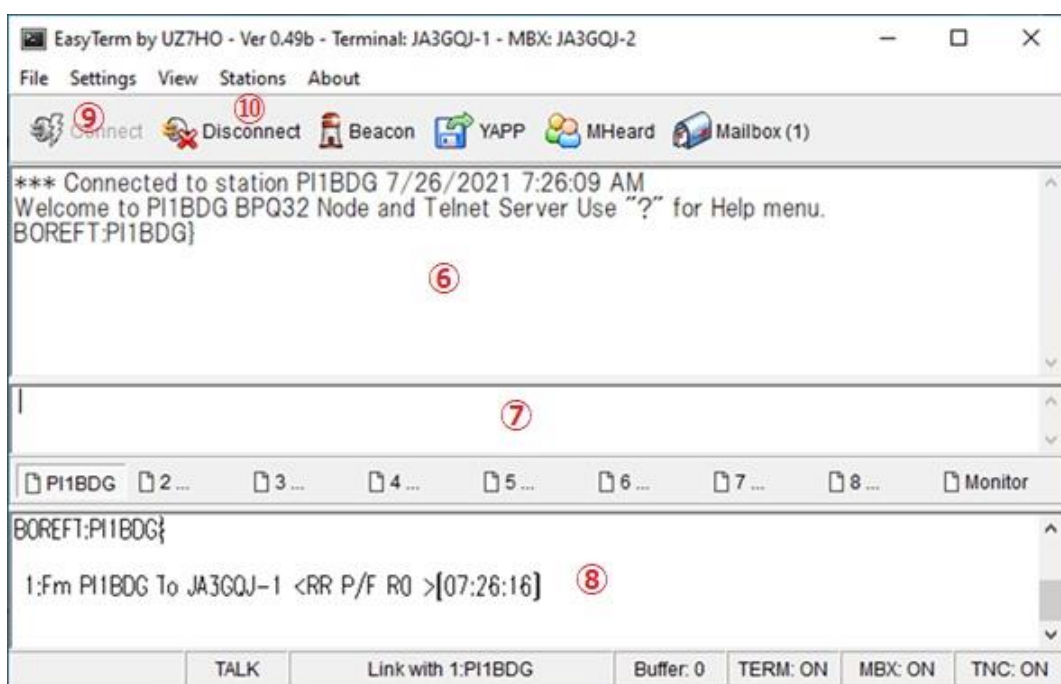
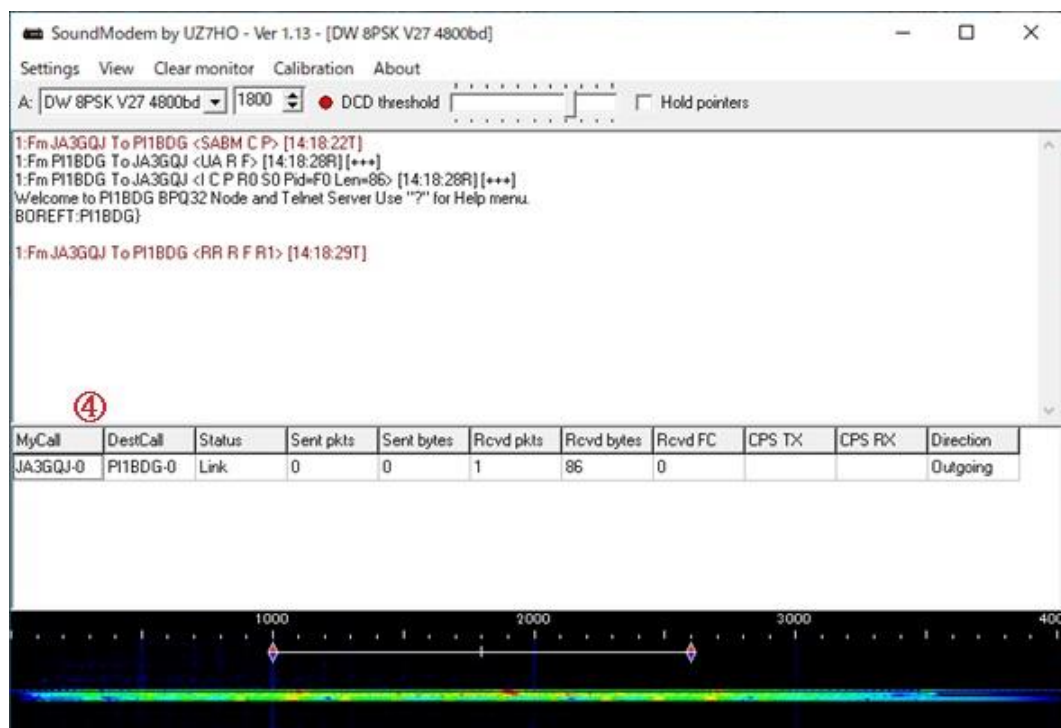
2.3.1 ノード局へ接続する

EasyTerm の、"Connect"⑨をクリックし、ポップアップする小さな画面の CallFrom：に自分のコールサイン、CallTo：に PI1BDG (パケットルームのコールサインとは異なる) を入力して"Connect"をクリックします。「SoundModem」で設定したサウンドカード (Port1 with SoundCard Ch:A) が「Radio Ports」 (無線ポート) ボックスにリストされていないと接続はできません。



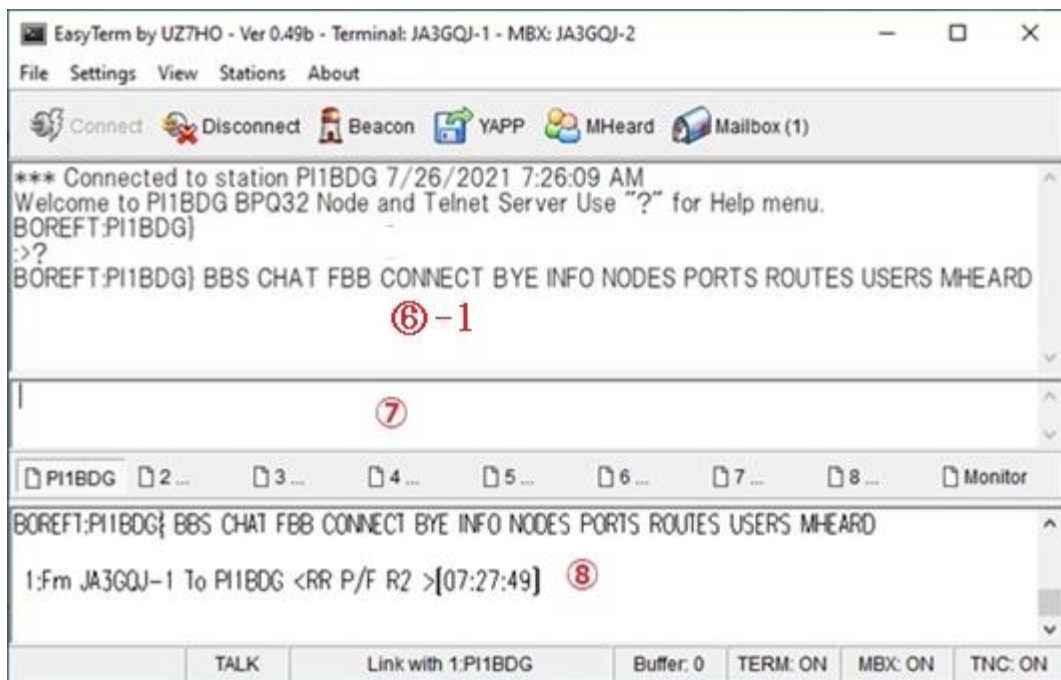
SoudModem のステイタスウインドウ④の MyCall に自分のコールサイン、DestCall に相手局のコールサイン、Status に Link が表示され、EasyTerm の"Connect"⑨の表示が薄くなった

て”Disconnect”⑩の表示に変わってウエルカムメッセージ⑥が返ってきたら PA8F Fred さんのノード局に接続されています。(PA8F ノード局運用中に限る)



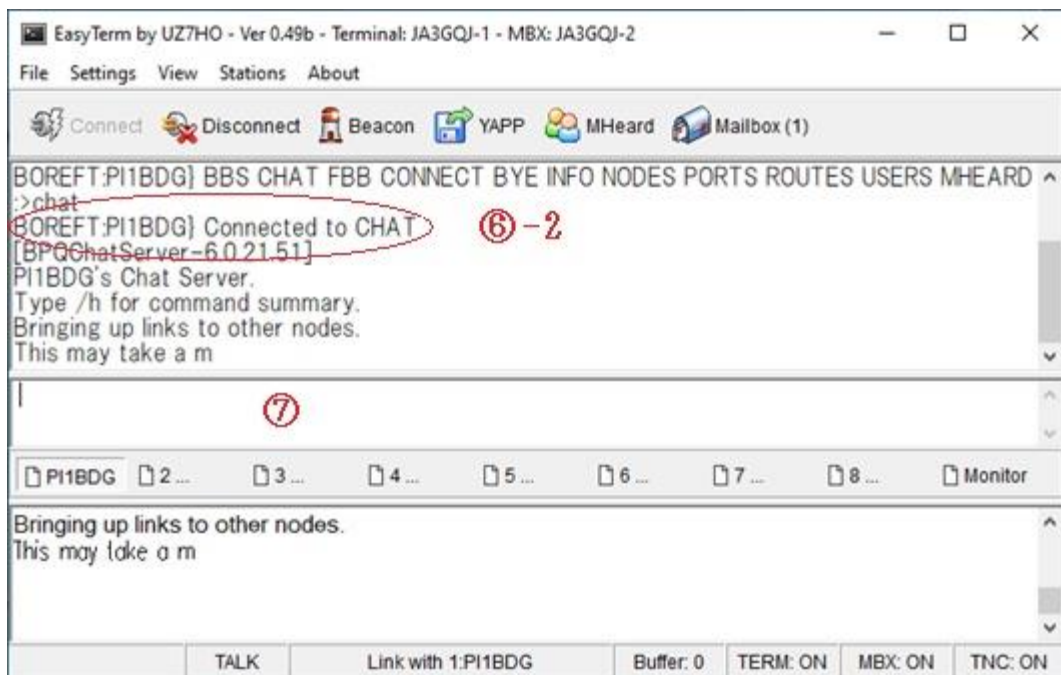
コマンド入力欄⑦に「?」を入力するとその局で使える 10 ページ上の図⑥-1 に示す次のコマンド一覧が送られてきます。

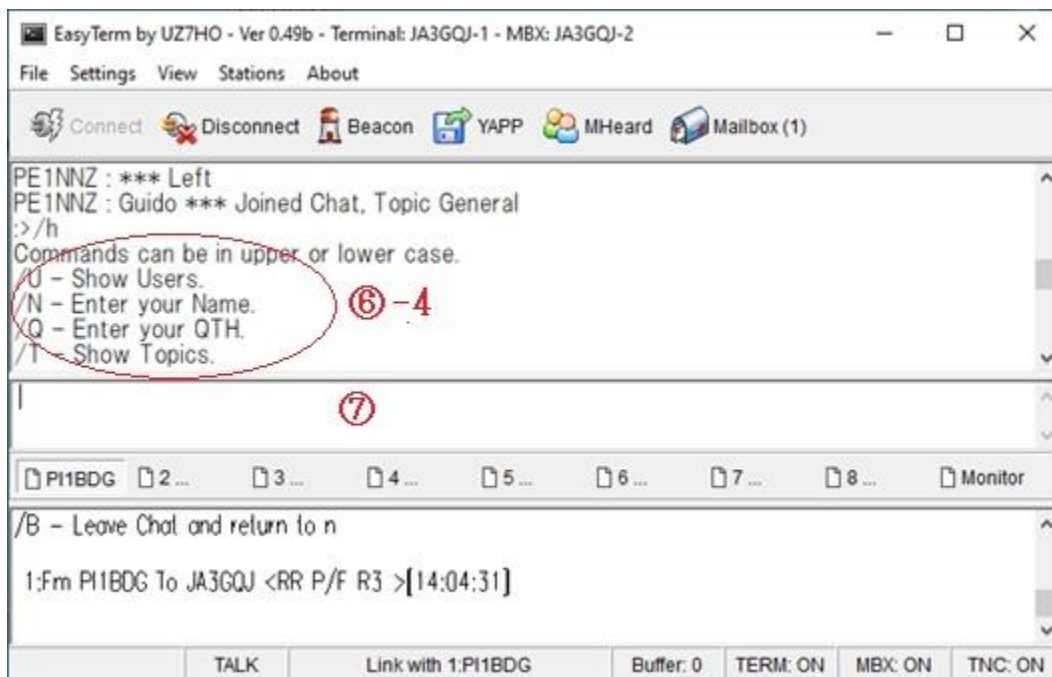
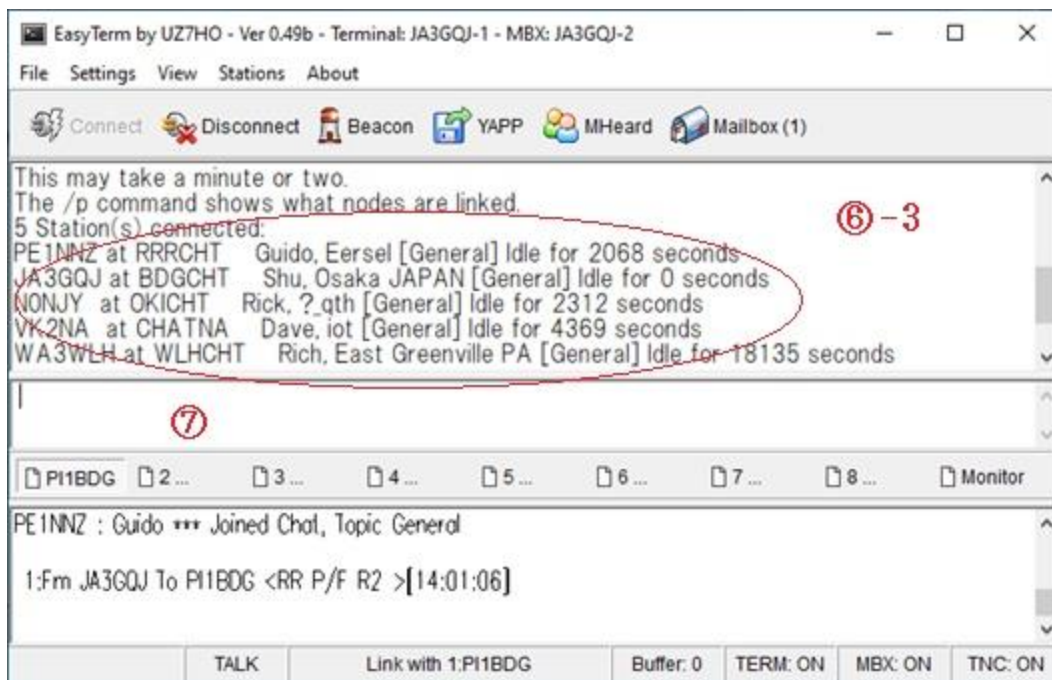
BOREFT: PI1BDG} BBS CHAT FBB CONNECT BYE INFO NODES PORTS ROUTES USERS MHEARD



2.3.2 欧文チャット

下図でコマンド入力欄⑦に「**CHAT**」または「**chat**」と入力する ⇒BOREFT:PI1BDG}Connect to CHAT が返って⑥-2⇒接続中の局のリストが表示される（11 ページ上の図⑥-3）⇒⑦に「**/H**」または「**/h**」を入力する⇒チャットで使用するコマンド一覧が表示される⑥-4）。⇒接続中の局のリストの中から自分がチャットしたい局を決めて「**/S** または**/s**“相手のコールサイン” “メッセージ”」（例えば、/s JI3ZII Hello OM）を⑦に入力する⇒相手局からの応答を待つ。といった手順でチャットを行う。





ユーザーコマンド

すべてのコマンドは/で始まります。/が前に付いていないテキストは、現在のトピックで接続されているユーザーを呼び出すために送信されます。コマンドは大文字でも小文字でもかまいません

/U - ユーザーを表示する

/N - 名前を入力する

/Q - QTH を入力する

/T-トピックを表示する

/T Name -トピックに参加するか、新しいトピックを作成します。 トピック名では大文字と小文字は区別されません。

/P-ポートとリンクを表示する

/A-ユーザー参加時にアラートを切り替えます。

/C-カラーモードのオンとオフを切り替えます（コンソールまたは BPQTerminal でのみ機能します。

/E-エコー切り替え。

/Keepalive - 10 分ごとにキープアライブメッセージの送信を切り替えます。

/ShowNames -名前の表示を切り替え、各メッセージを呼び出します。

/Auto -自動文字セット選択を切り替えます。

/UTF-8 -文字セットの選択を切り替えます-UTF *または 8 ビット。

/CodePage (or /CP) UTF8 が選択されていない場合に使用するコードページを選択します。

/Time -各メッセージのタイムスタンプの表示を切り替えます。

/S CALL Text -その局にのみテキストを送信します。

/F-すべてのリンクを強制的に作成します。

/K-既知のノードを表示します。

/B-チャットを終了してノードに戻ります。

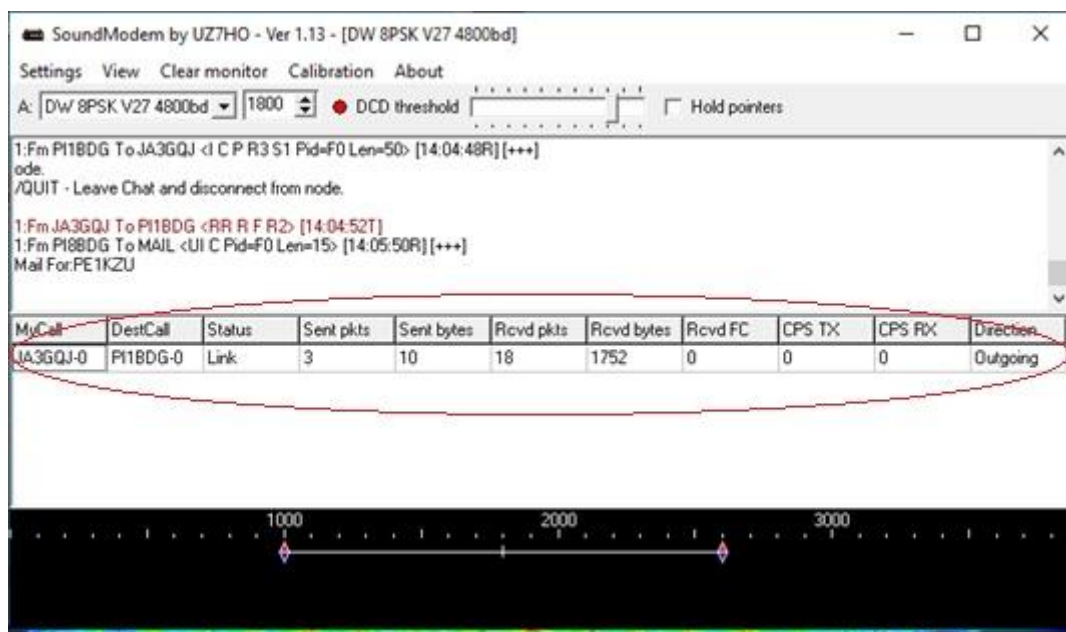
/QUIT-チャットを終了し、ノードから切断します。

2.3.3 和文チャット

変則的ですが和文の送受信が出来ました。詳細は直接チャット参照。

チャット進行中の SoundModem

接続が成立したら「MyCall」=自分のコールサイン、「DestCall」=接続先ノード局コールサイン(PI1BDG-0)、「Status」=Link は接続中「Direction」=自分が相手に繋いだので Outgoing 等々各項目にデータが入ります。運用に慣れるとこの画面は非表示でも良いと言われていますが和文のチャットの文字はここに表示されるので表示しておいたほうが良いと思う。



2.4 直接チャット

同じパケット用ソフトを使用して Peanut の packet ルームにアクセスしている局同士は一对一のチャットが出来ます。

2.4.1 相手局に接続する

EasyTerm の"Connect"をクリックし、ポップアップする小さな画面の CallFrom：に自分のコールサイン、CallTo：に相手局のコールサインを入力して"Connect"をクリックします。

SoundModem で設定したサウンドカード（Port1 with SoundCard Ch:A）が「Radio Ports」ボックスにリストされていないと接続はできません。

Connect

CallFrom: JA3GQJ

CallTo: JL3ZII

Digipeaters (Separate with comma)

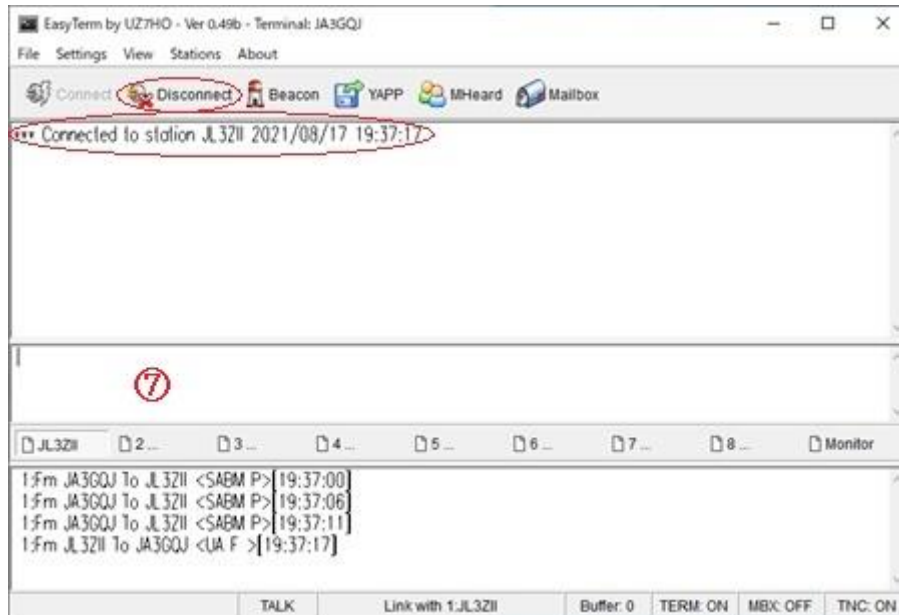
Radio Ports

Port1 with SoundCard Ch: A

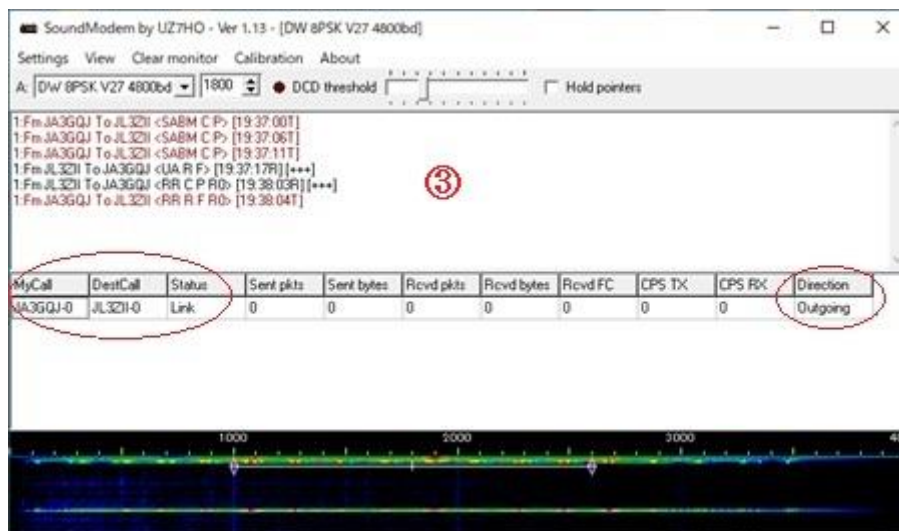
Connect Cancel

相手局に接続されて EasyTerm の「Connect」の表示が薄くなって「Disconnect」の表示に変わります。（ノード局経由と同じ）

EasyTerm の接続直後の画面



SoundModem の接続直後の画面



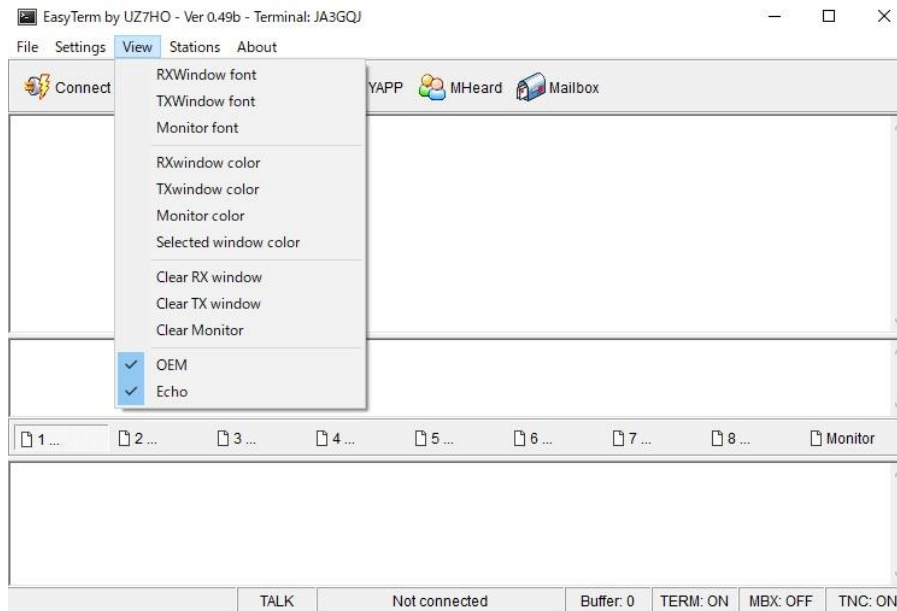
2.4.2 欧文チャット

ノード局経由ではないので接続と同時にチャットモードになっているようです。直接コマンド入力欄⑦に英文を入力してエンターキーを押すとそれが送信されて相手局にその英文が届きます。

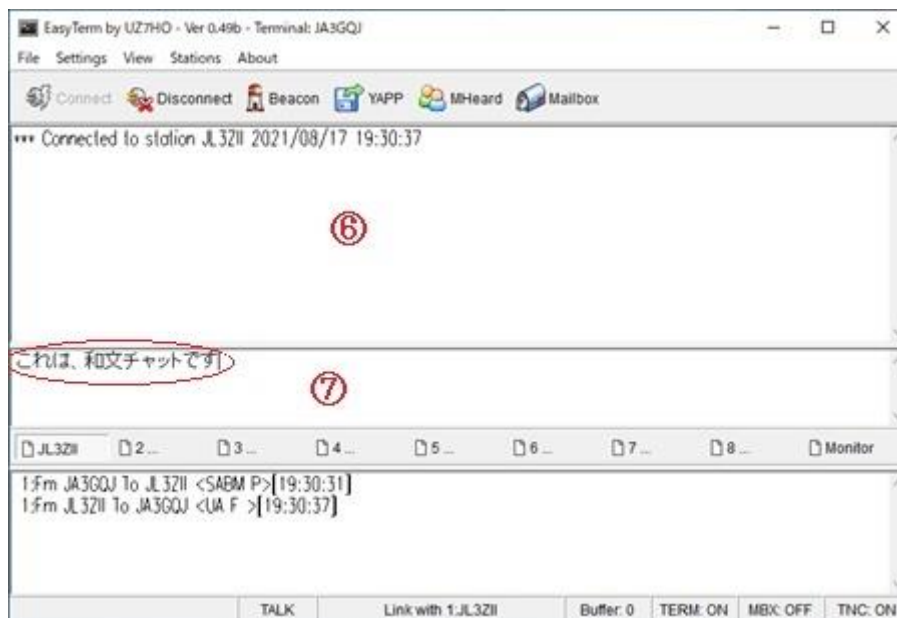
この英文は EasyTerm の⑥と SoundModem の③にも表示されます。

2.4.3 和文チャット

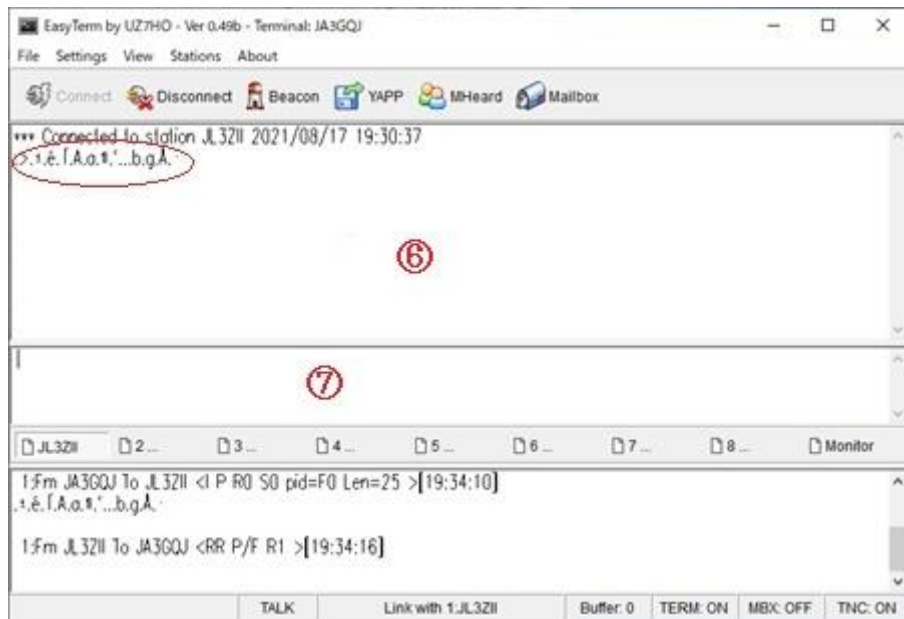
- ・ キーボード左上の半角／全角キーをクリックして全角に切り替える。
- ・ 巻末 APPEDEX 4 で RXWindow font、TXWindow font、Monitor font が MS ゴシック等和文対応フォントに設定されていること。



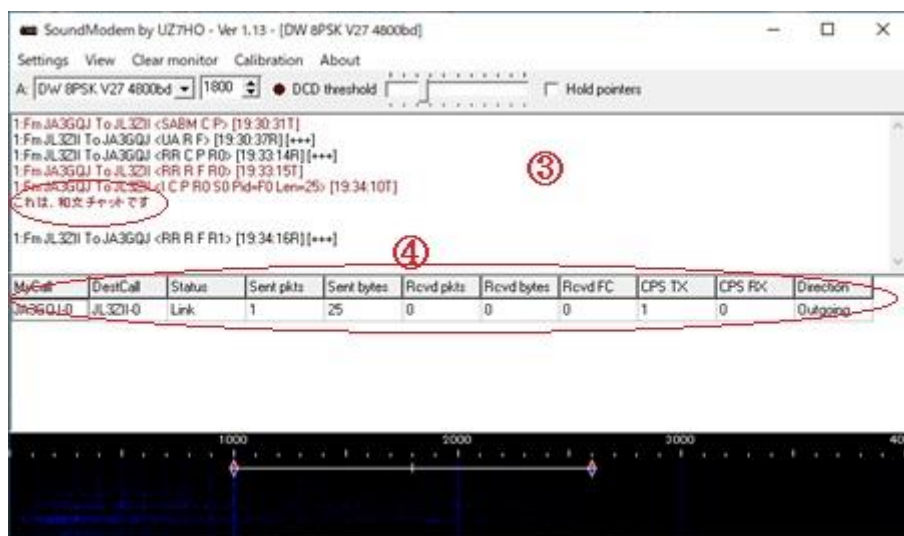
- ・ コマンド入力欄⑦に和文を入力する。



- ・ エンターキーを押して送信すると英文の場合は送信文字が正しく表示されうが和文の場合は何故か⑥には化け字が表示される。



- ・しかし SoundModem の TX/RX モニター③には正しく和文が表示されて、これが相手局の SoundModem の TX/RX モニター③にも表示されるので和文チャットが出来る。④の Sent bytes にも送信バイト数が表示されている。



3 チャットを終了してパケットを終了する

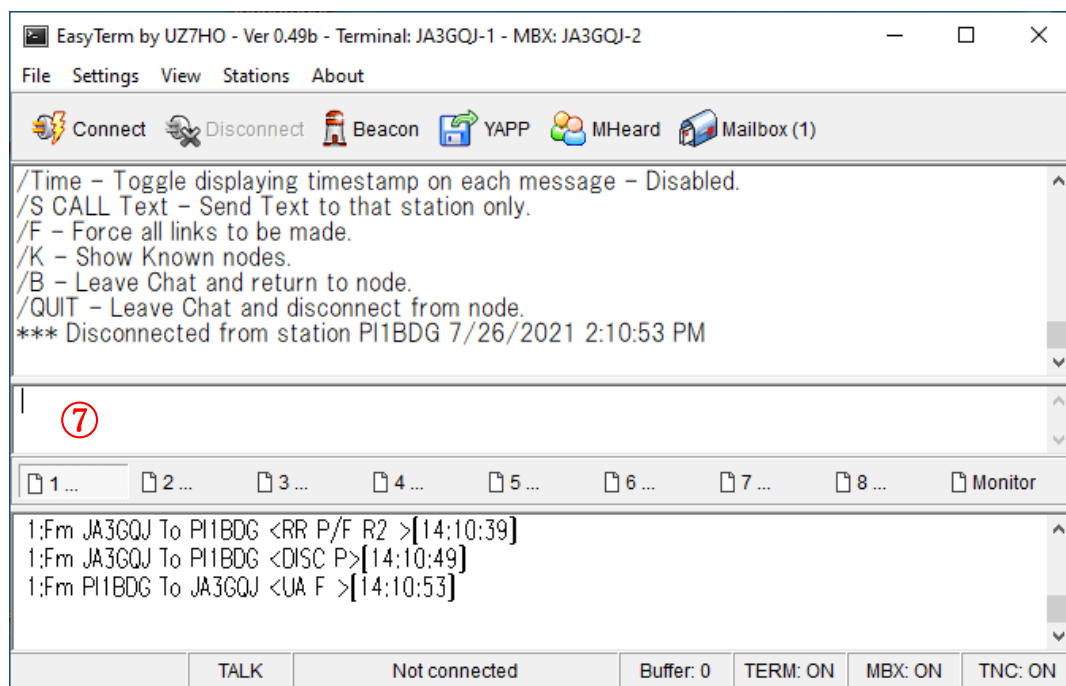
終了の方法は次の三通りです

- ・ノード局経由・直接チャットに関わらず、Easyterm の「Disconnect」をクリックしたらチャットが終了してノード局/直接チャット相手局との接続も終了します。
- ・ノード局経由の場合、チャットユーザーコマンドの「/QUIT」または「/quit」を入力するとチャットが終了してノード局との接続も終了します。

- ・ノード局経由の場合、チャットユーザーコマンドの「/B」または「/b」を入力するとチャットは終了しますがノード局との接続は継続しています。

BBS :

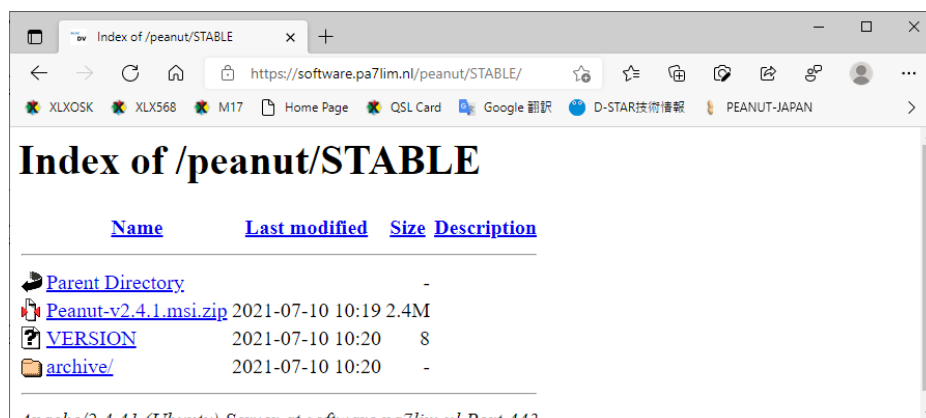
BBS を利用する時は「CHAT」または「chat」に代わって「BBS」または「bbs」をコマンド入力欄⑦に入力するがこの体験は別途改めて行いたいと思います。



以上

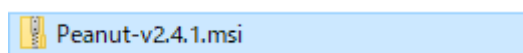
● APPENDEX 1 - Peanut のインストール

<https://software.pa7lim.nl/peanut/STABLE/> から“Peanut-v2.4.1.msi.zip”をダウンロードします。

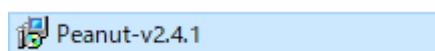


開いた画面で“Peanut-v2.4.1.msi.zip” をクリックしてダウンロードを開始しますがその方法は各自異なると思います。

私の場合“Peanut-v2.4.1.msi.zip”がウィンドウズのデフォルトのダウンロードフォルダーに入りました。（下図）



解凍ソフトの使い方にもよりますが、私の場合、Windows のデフォルトのダウンロードフォルダーに次のように実行可能ファイルが生成されていました。（下図）



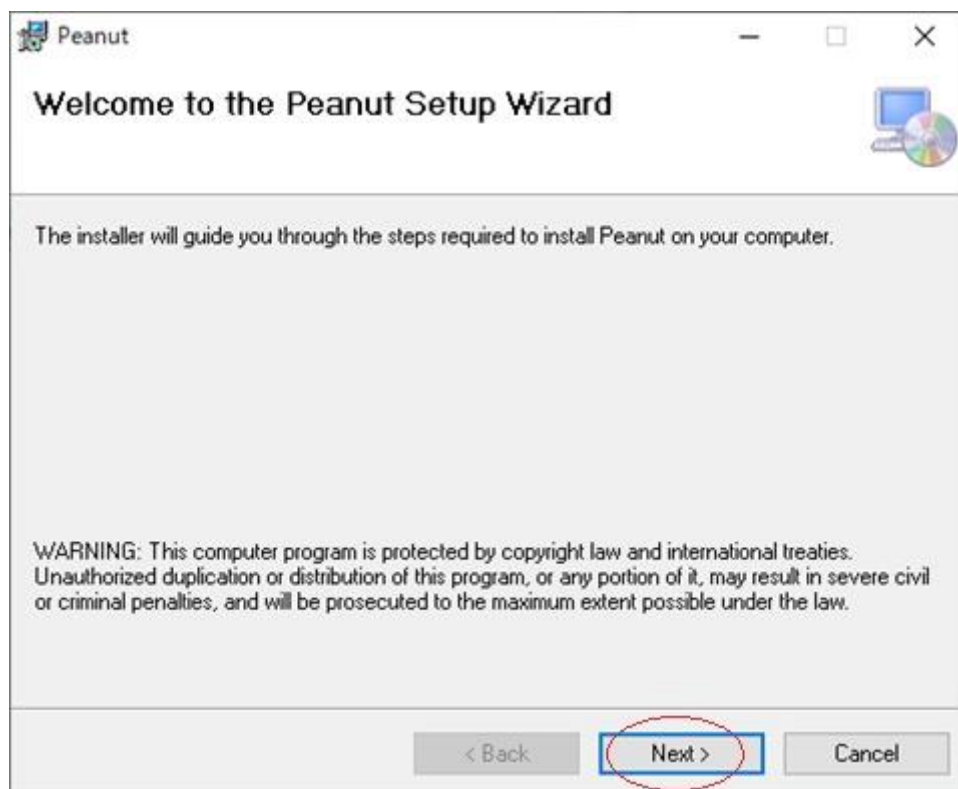
これをクリックするとインストールが開始されますが、私のコンピュータでは、「Windows がコンピューターを保護しました」という画面（下図）が表示されます。次に、[詳細]をクリックします。



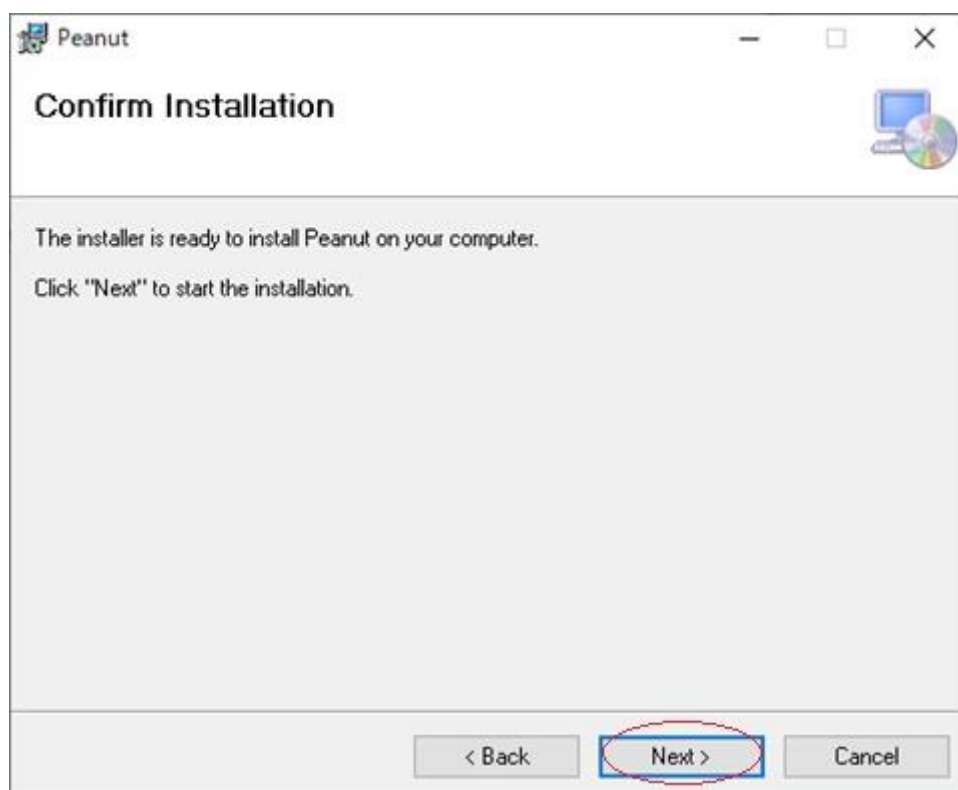
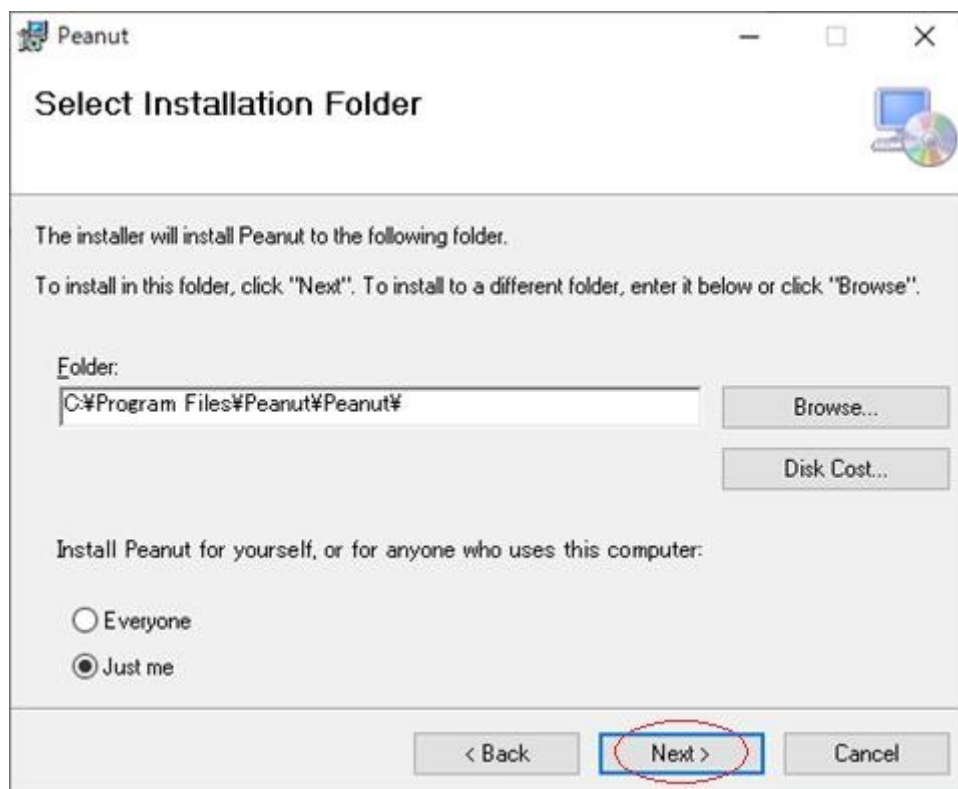
すると、「実行」ボタンのある画面（下図）に変わったので、それをクリックします。



次に、何故か英文の「Welcome to the Peanut Setup Wizard」（下図）がポップアップ表示されるので、「Next>」をクリックします。

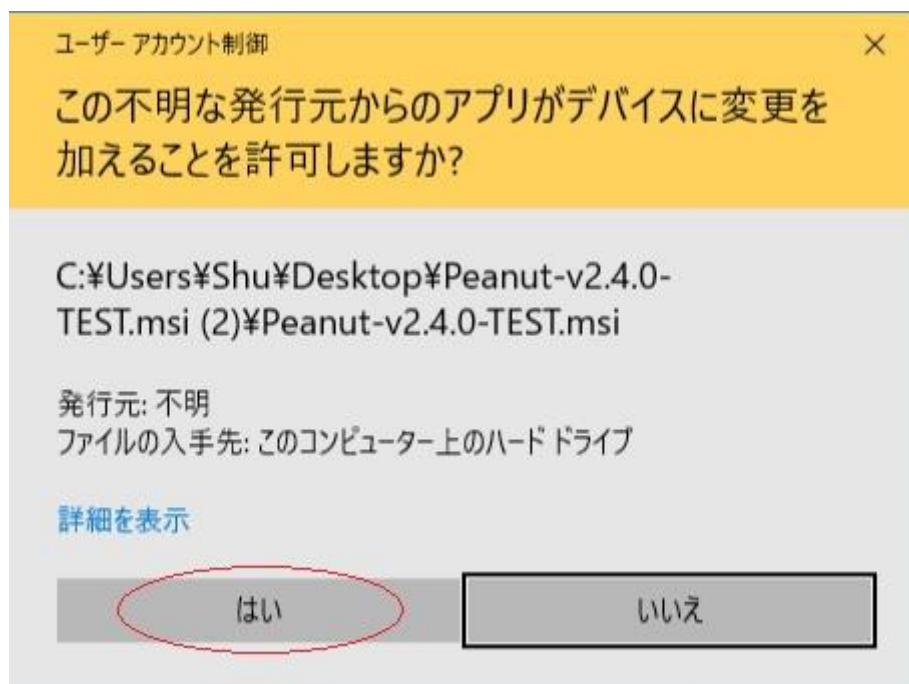


以下、各画面で「Next>」をクリックしてインストールを続行します。

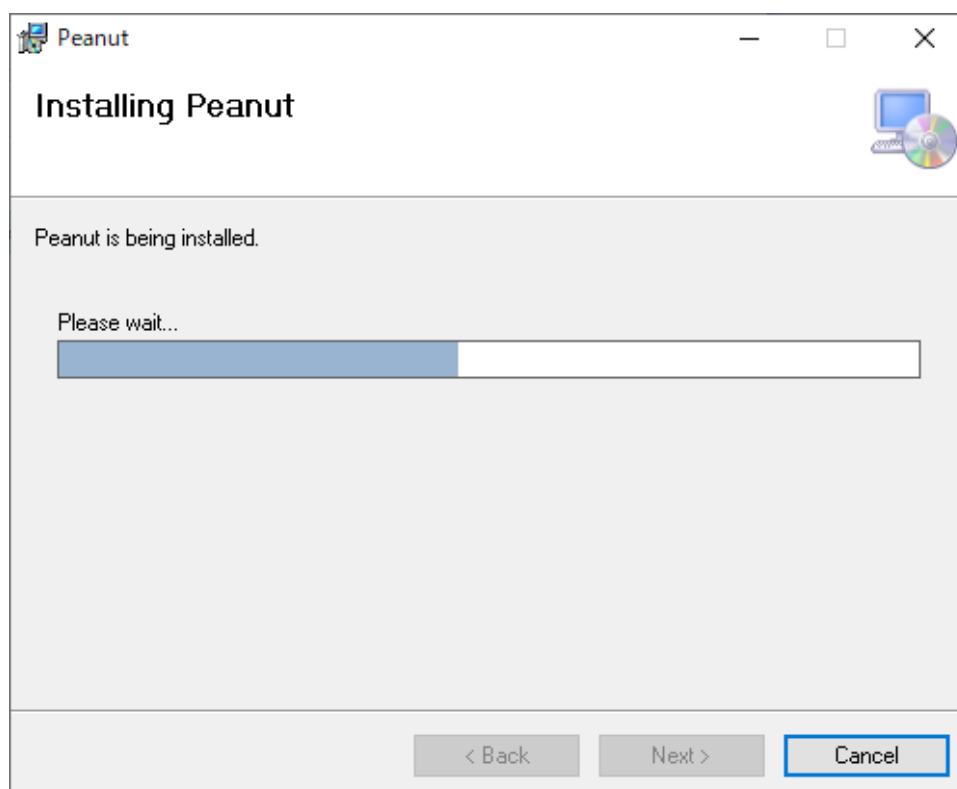


「Next>」ボタン（上図）をクリックすると、

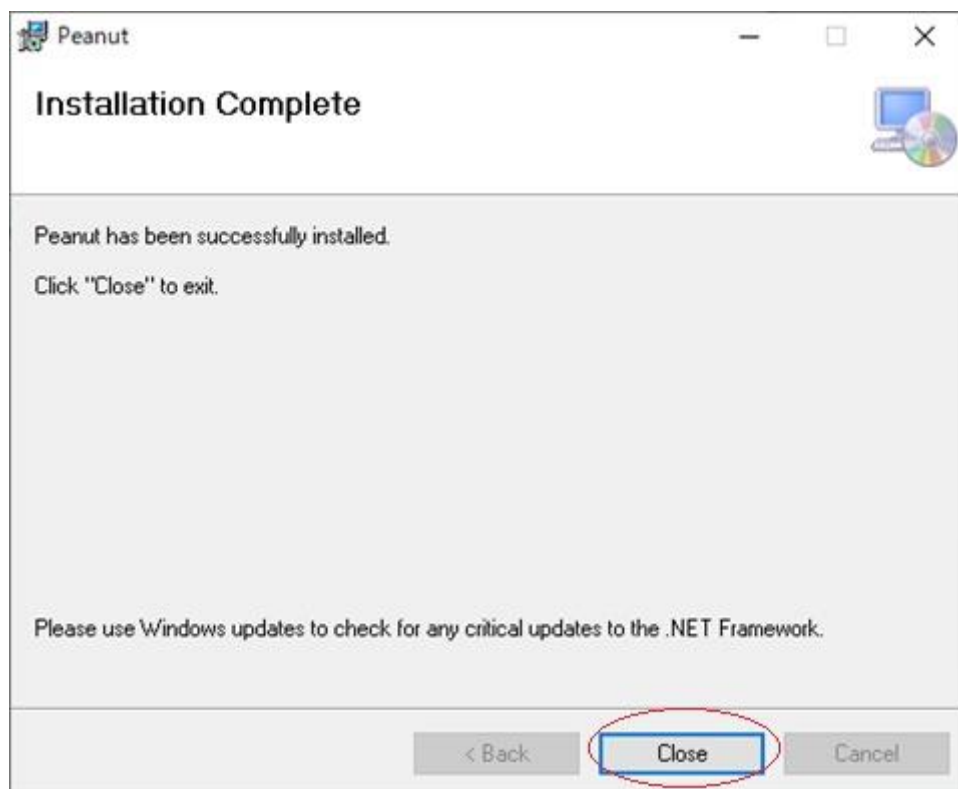
ユーザーアカウント制御画面（下図）が表示され、「アプリがこの不明な発行元からデバイスに変更を加えることを許可しますか？」と表示されるので、「はい」をクリックします。



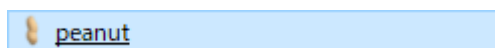
インストールが始まります。（下図）



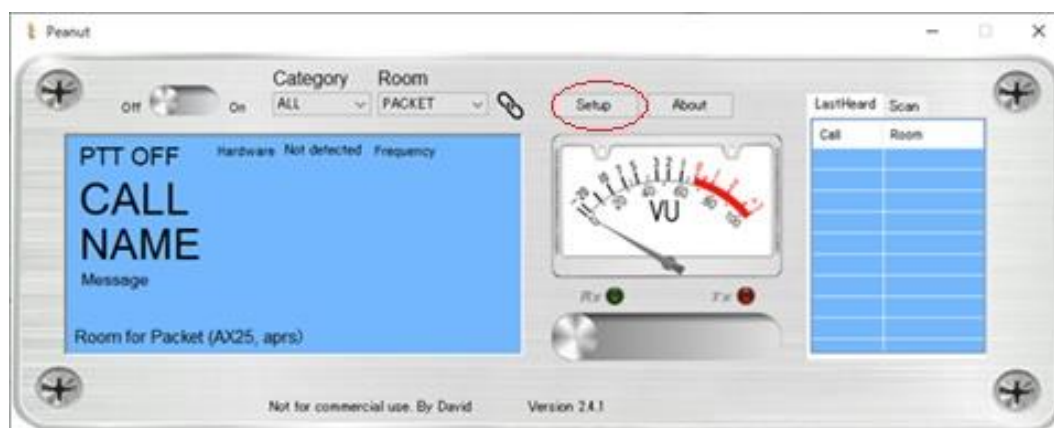
Installation Complete 画面（下図）が表示されたら「Close」ボタンをクリックしてインストールを終了します。



インストールされているプログラムファイルは、C : \ Program \ Peanut \ Peanut にあります。

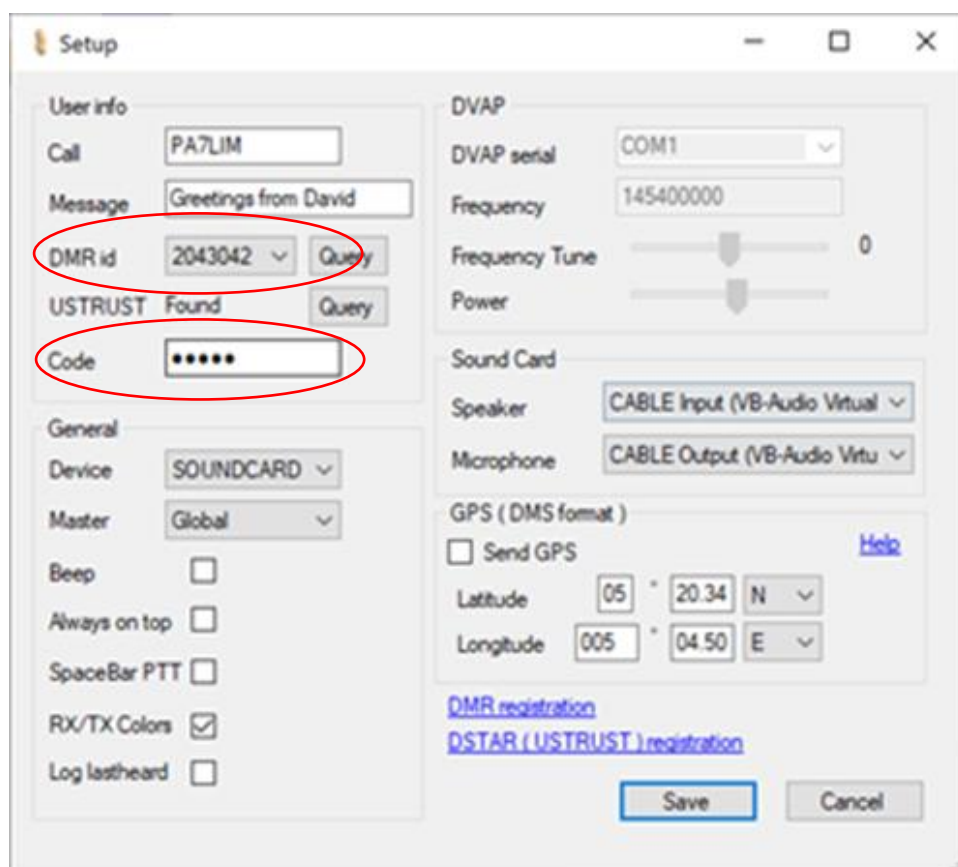


これをクリックしてピーナッツを起動します。

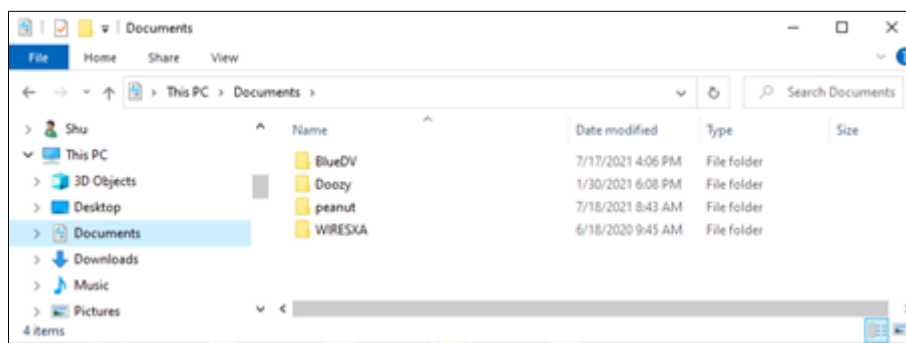


次に、Setup タグをクリックして設定画面（下図）を開きます。

画面右下の DMR 登録（青い文字）をクリックし、開いたページの指示に従って必要な手順に従うことで、MDRid を取得できます。Peanut を使用する為には Code 番号が必要です。コールサインと名前を添えて jh1twx@jarl.com 野田さん宛てメールを送ります。Dstar に興味のある方は、下行の「DSTAR (USTRUST) 登録」をクリックして登録してください。ピーナッツだけでなく、「BlueDV for Windows」、「Dozy」など、さまざまな楽しみ方ができます。



Peanut のメインフォルダは c : \ Program Files \ Peanut \ Peanut ですが、デスクトップのタスクバーの「ファイルエクスプローラ」（フォルダタイプアイコン）で開いた「ドキュメント」フォルダに別の Peanut フォルダ（下図）があります。ここに、メモ帳で編集できる「peanut.ini」があります。



“peanut.ini”ファイルの内容は次のようになります。

```
[GENERAL]
```

```
myCall=JA3GQJ
```

```
.
```

```
.
```

```
----- 途中省略 -----
```

```
.
```

```
.
```

```
[SOUNDCARD]
```

```
recdevice=0
```

```
playdevice=0
```

```
[SERIALPTT]
```

```
# CTS = Peanut PTT
```

```
# RTS = Squelsh frm Peanut
```

```
enabled=1
```

```
serial=COM4
```

```
invertRTS=1
```

```
invertCTS=1
```

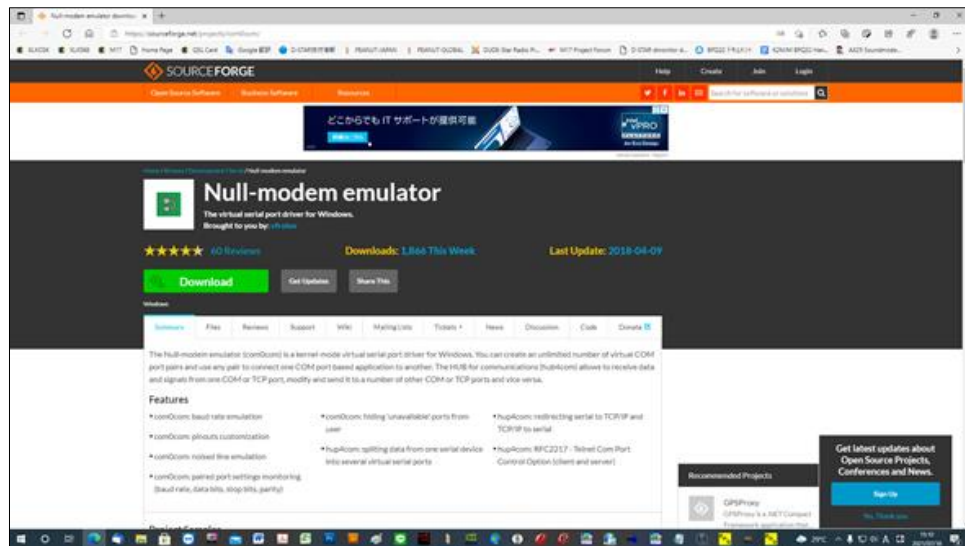
```
dataMode=1
```

以上

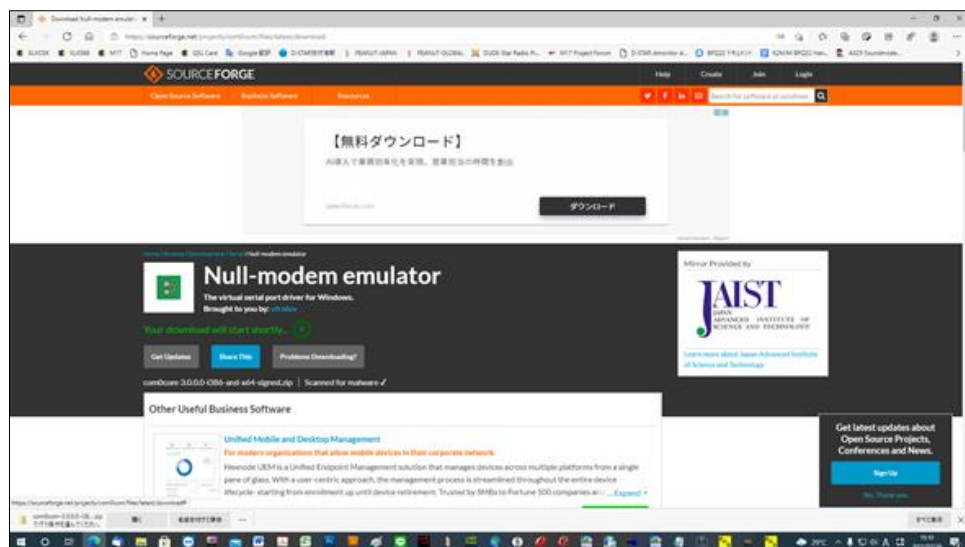
● APPENDEX 2 - バーチャル COM ポートのインストールと設定

<https://sourceforge.net/projects/com0com/> をクリックしてダウンロードページを開きます。

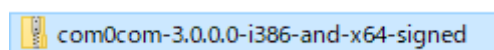
次に、画面の緑色の「ダウンロード」ボタンをクリックしてダウンロードを開始します。



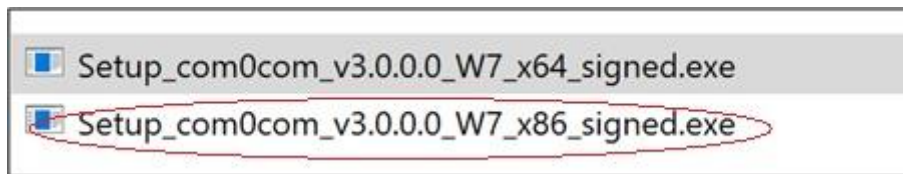
以降の手順は、各自多少異なります。



私の場合、Windows のデフォルトのダウンロードフォルダーに圧縮ファイル（下図）をダウンロードしました。これをクリックします。



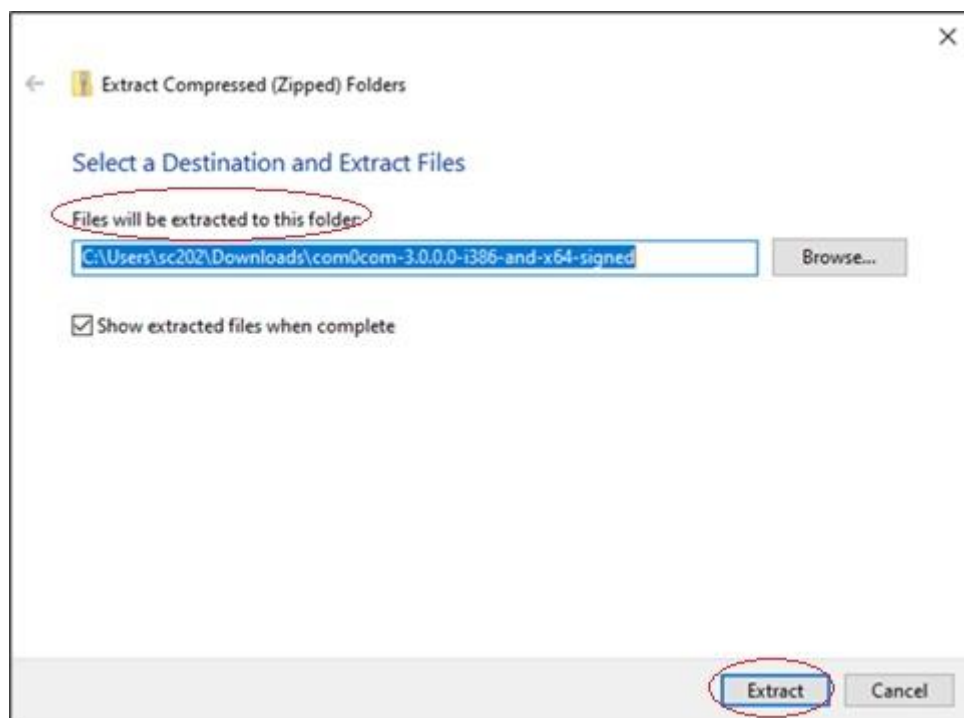
解凍されて、32 ビット用と 64 ビット用の 2 つのファイルが作成されました。



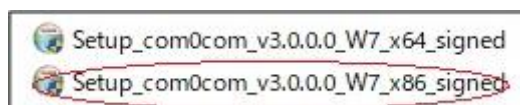
私のパソコンは 32 ビットなので、Setup_com0com_v3.0.0.0_W7_x86_signed.exe をクリックしました。下図のコメント画面がポップアップしたので、「Extract all」ボタンをクリックしました。



次に、ファイルが解凍されるフォルダ名を指定する画面（下図）がポップアップしました。ここで「Extract」ボタンをクリックします。



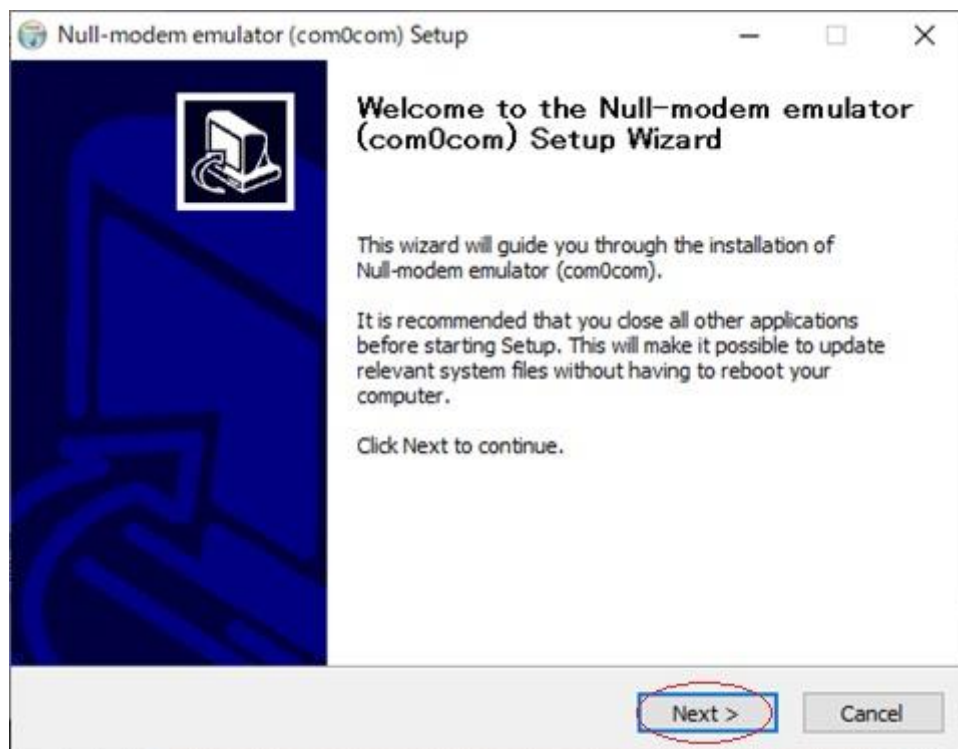
その後、2つのファイルが生成されました。Setup_com0com_v3.0.0.0_W7_x86_signed.exe をクリックします。（下図）

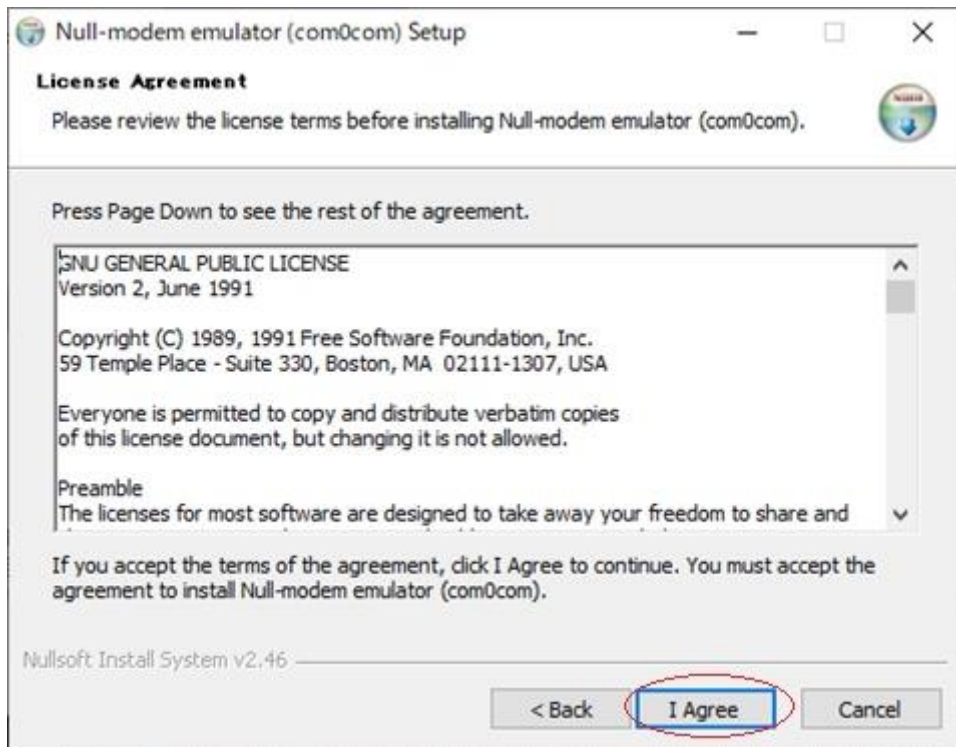


次にポップアップする画面（下図）の「Yes」ボタンをクリックして、インストールを開始します。

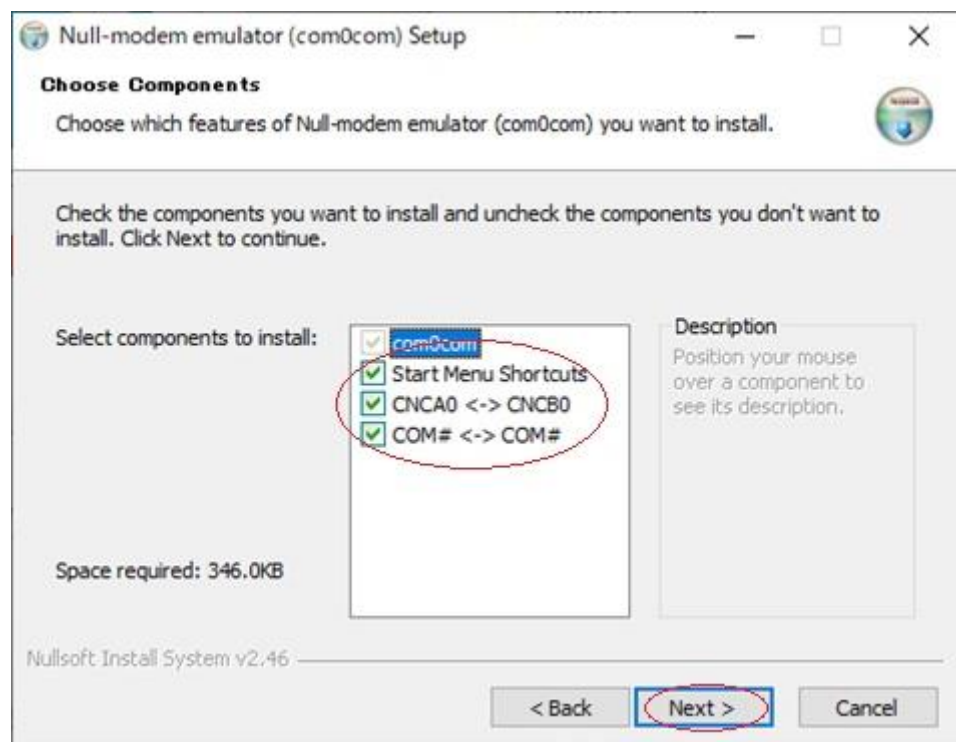


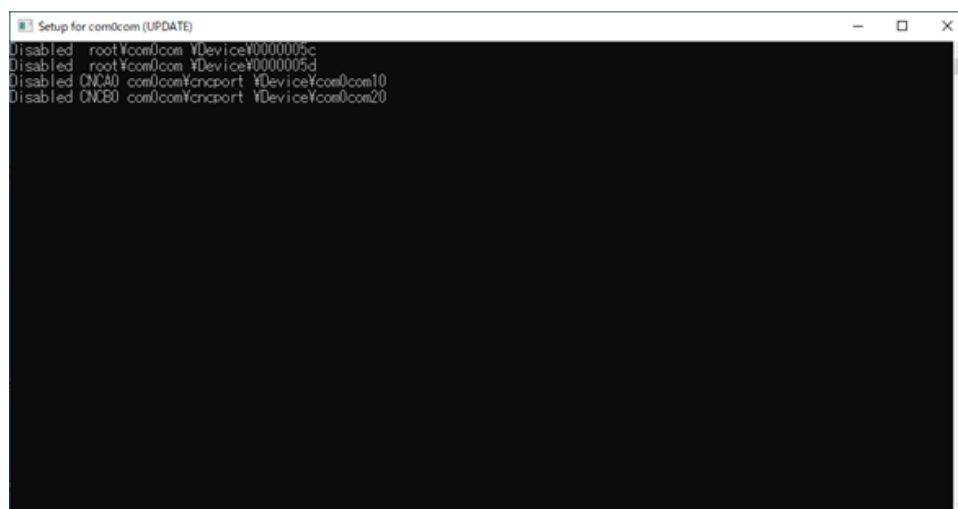
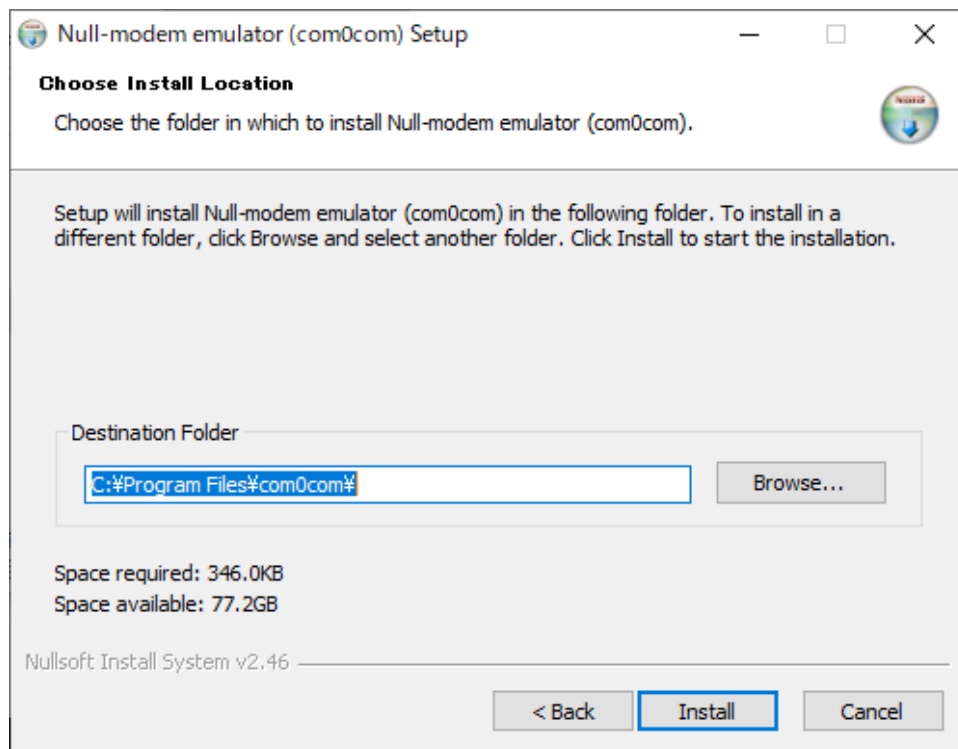
次にポップアップする画面（下図）の「Next>」ボタンをクリックします。続いてポップアップする画面の「I Agree」、「Install」などのボタンをクリックして、インストールを進めます。インストール完了画面の「Finish」ボタンをクリックする前に、「Launch Setup」にチェックマークを付ける必要がありますのでご注意ください。

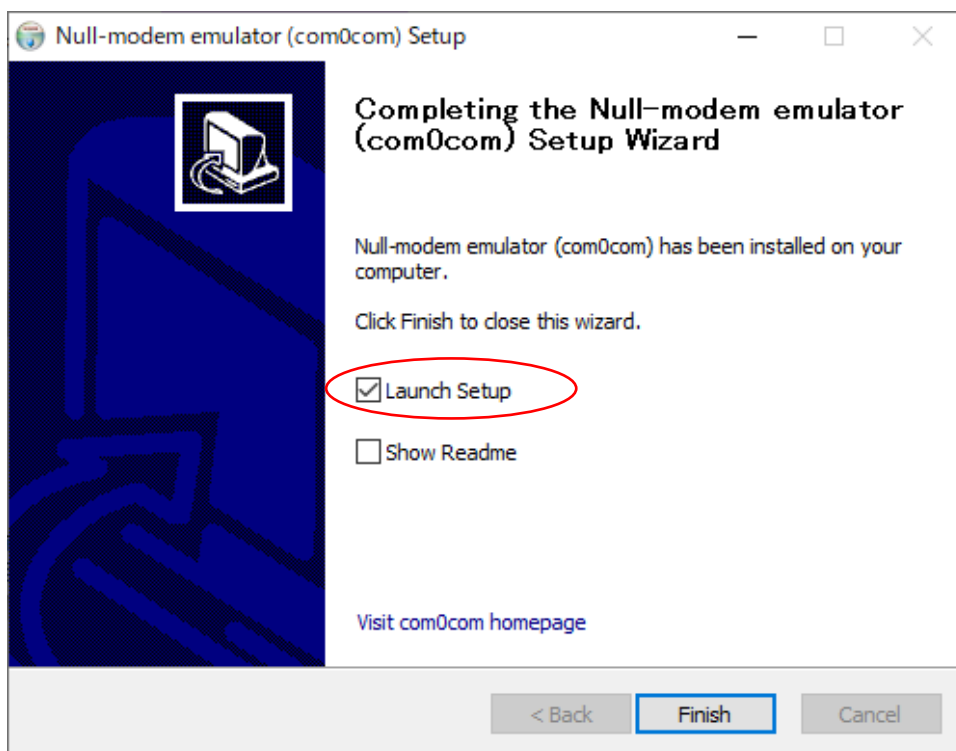
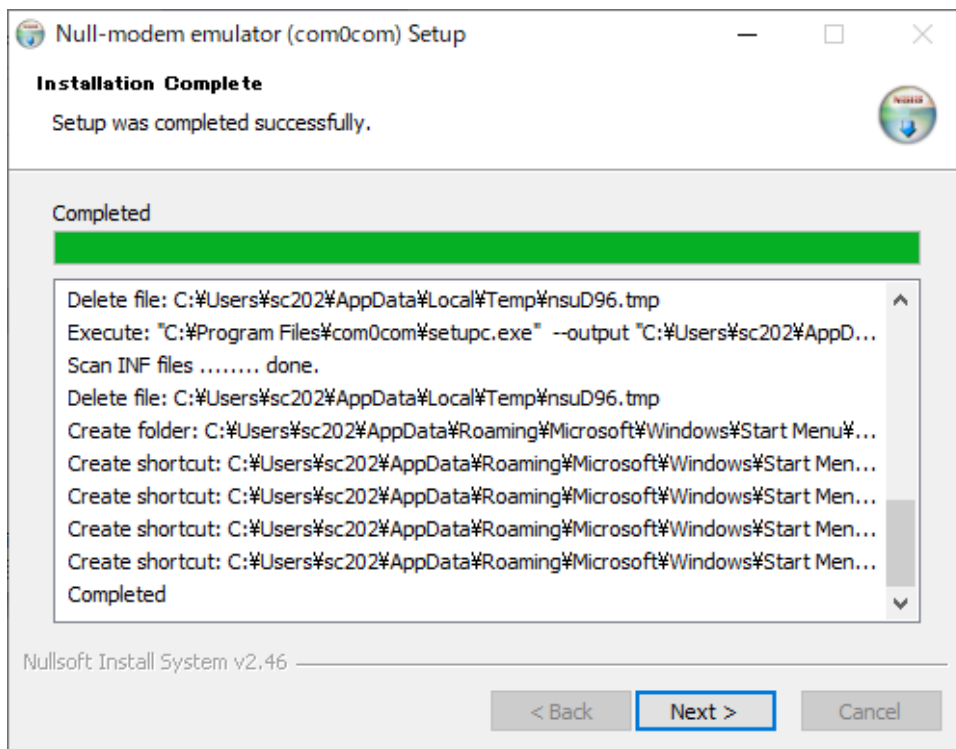




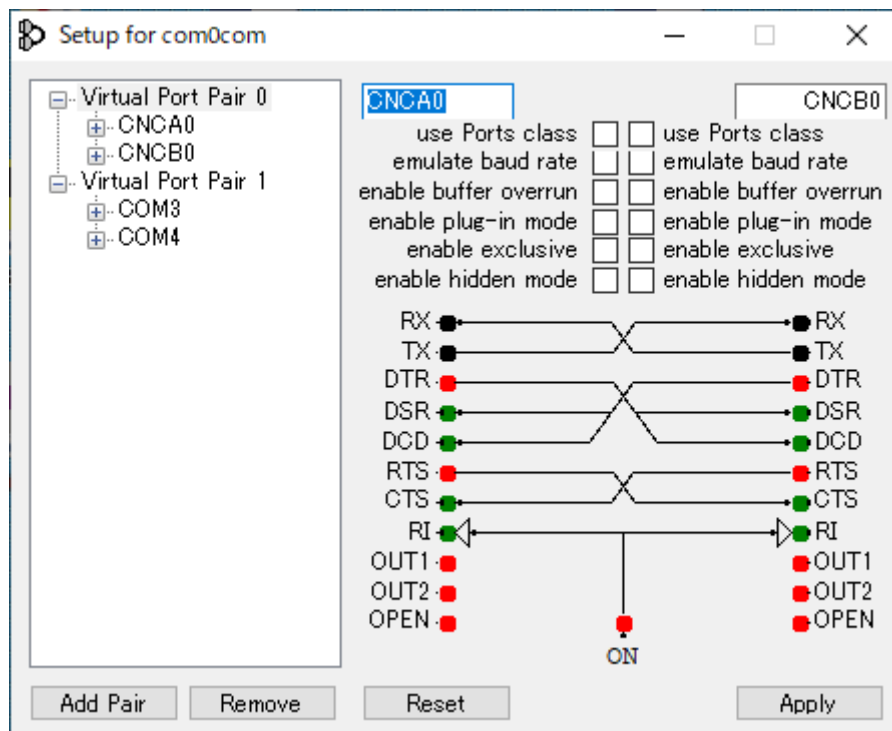
次にポップアップする画面（下図）の Start Menu Shortcuts、CNCA0 <-> CNCB0、COM# <-> COM#にチェックマークを入れて「Next >」をクリックします。



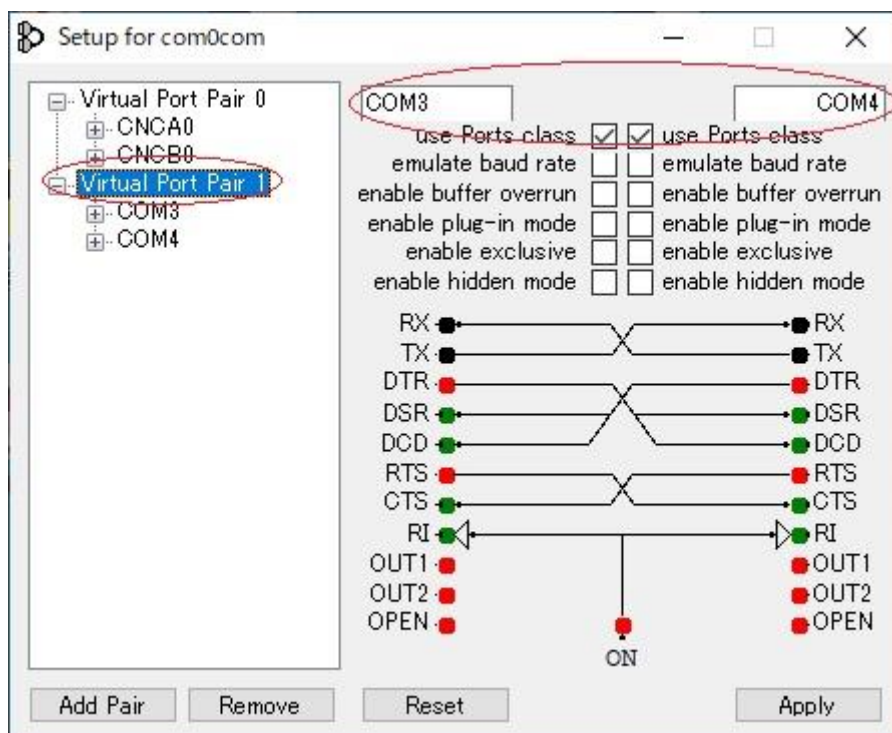




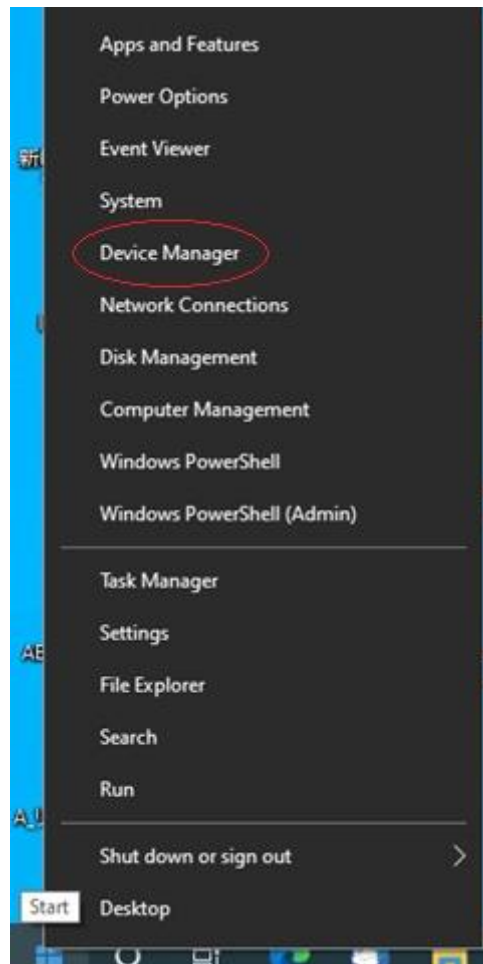
「Launch Setup」にチェックを入れて「Finish」ボタンをクリックすると、「Setup for com0com」（下図）がポップアップします。



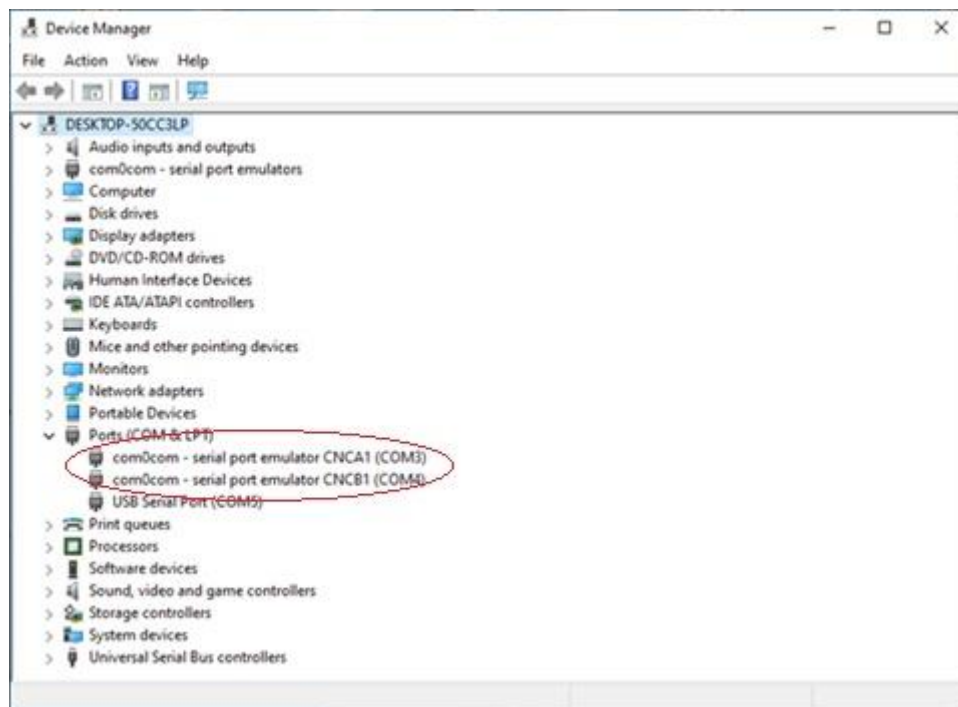
画面の左側にある "Virtual Port Pair 1"（仮想ポートペア 1）を選択します。すると、仮想 COM ポート（私の場合 COM3, COM4）が設定されます。（下図）



デスクトップ画面の下部にあるタスクバーの左端のスタートボタン（ウィンドウ型アイコン）を右クリックして、ポップアップリストで「デバイスマネージャ」をクリックし仮想 COM ポートがリストされていることを確認します。



デバイスマネージャリストの「ポートコムと LPT」に「com0com-シリアルポートエミュレータ CNCA1 (COM#)」があれば OK です。 COM#の#の数字は、使用するパソコンのポートの使用状況によって異なります。ほかに使用しているポートの数が少ないほど、#の値は小さくなります。 今回のパソコンはほかに使用しているポートが少ないので、#の値は小さく、ポートは COM3 と COM4 です。



以上

● APPENDEX 3 - 仮想サウンドカードのインストール

VB-CABLE Virtual AUDIO Device のインストール

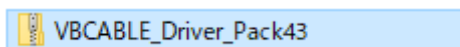
現在実行中のプログラムを全て停止して <https://vb-audio.com/Cable/index.htm> を開いて Windows バージョンをダウンロードします。 その後の手順は、いつもあなたが行うダウンロード手順と同じです。



ダウンロードアイコンをクリックするときは、次のコメントに注意してください。

「インストール：すべてのファイルを抽出し、管理者モードでセットアッププログラムを実行します。 インストール後に再起動してください。」

私の場合、Windows のデフォルトのダウンロードフォルダに次のように zip ファイルをダウンロードできました。 これをクリックしてください。



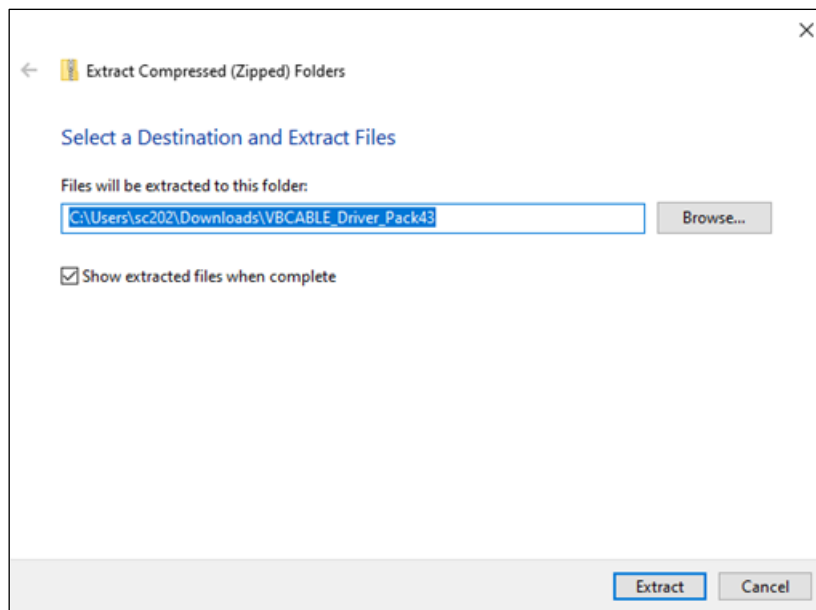
これにより、「VBCABLE_Setup」ファイル（下図）が別のフォルダーに生成されます。 これをクリックします。



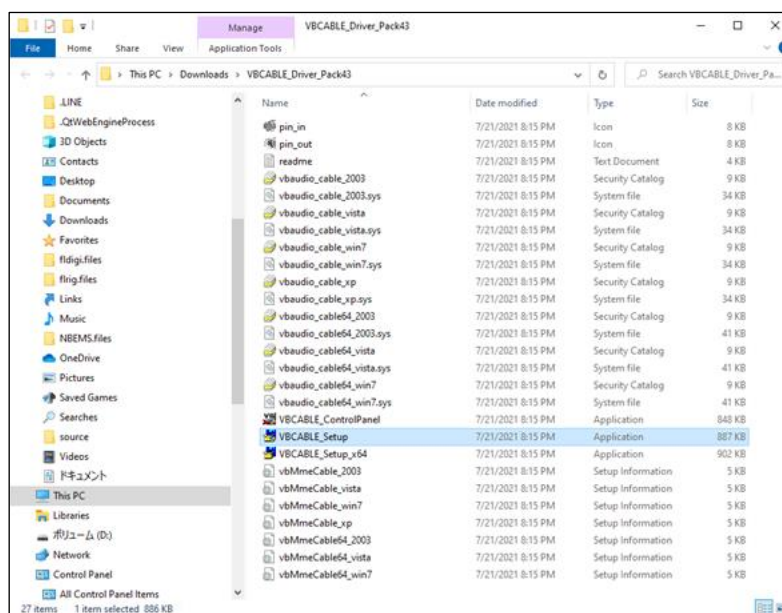
クリックすると下図表示されますので、「Extract all」ボタンをクリックします。



すると、ファイルを抽出するフォルダ名を指定する画面（下図）が表示されます。そこで、「Extract」ボタンをクリックします。



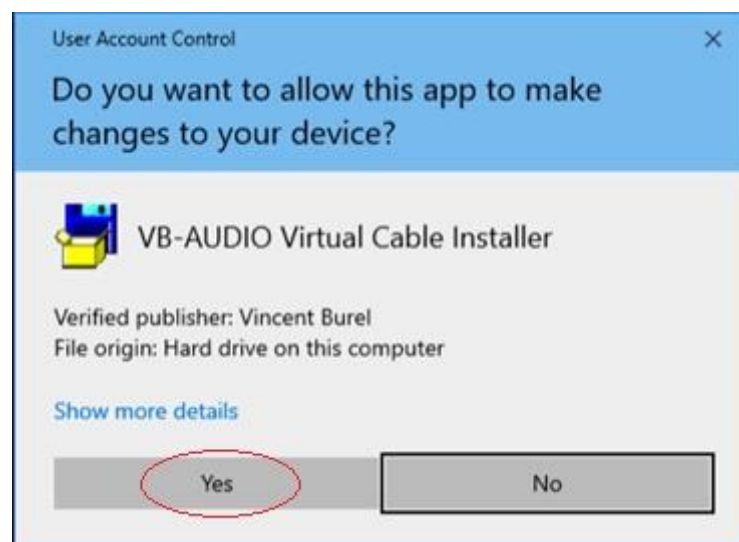
次に、解凍されたファイルリストが VBCABLE_Driver_Pack43 フォルダー（下図）に表示されます。



そこで、リストの「VBCABLE_Setup」を右クリックします。ポップアップした画面の「管理者として実行 (A)」をクリックします。次の画面が表示されますので画面の「はい」ボタンをクリックします。



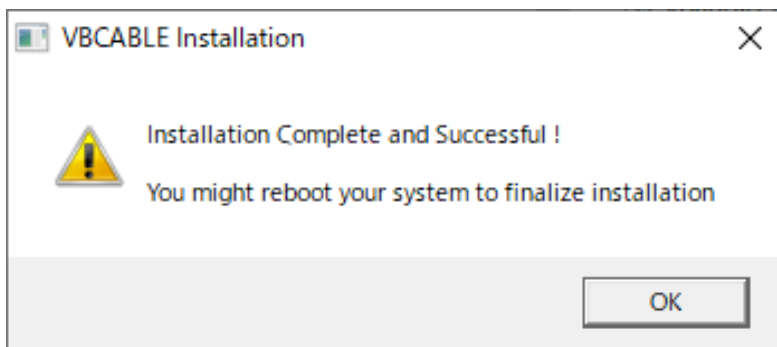
下図が表示されますので画面の「Yes」ボタンをクリックします。



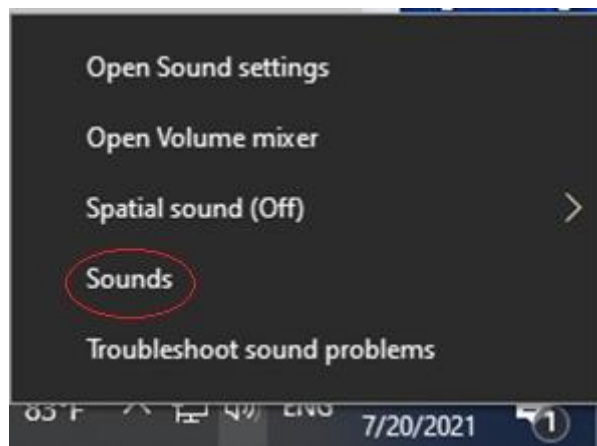
そして、ポップアップ画面の「Install Driver」ボタンをクリックして終了します。



下図がポップアップしたら「OK」ボタンをクリックして終了です。

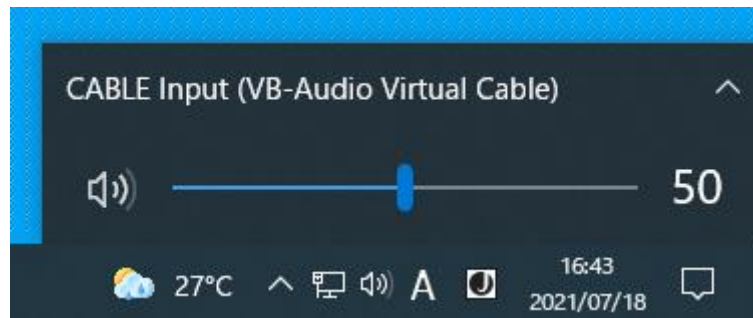


デスクトップ画面のタスクバーにあるスピーカーアイコンを右クリックし、リストから「Sound (S)」を選択して開き、録音タグと再生タグのリストに VB-Audio Virtual Cable が追加されていることを確認します（次ページ）。タスクバーは通常、デスクトップ画面の下部にあるため、スピーカーアイコンはタスクバーの右端の近くにあります。





タスクバーのスピーカーアイコンを左クリックすると、音量調節用のスライダー（下図）を表示できます。

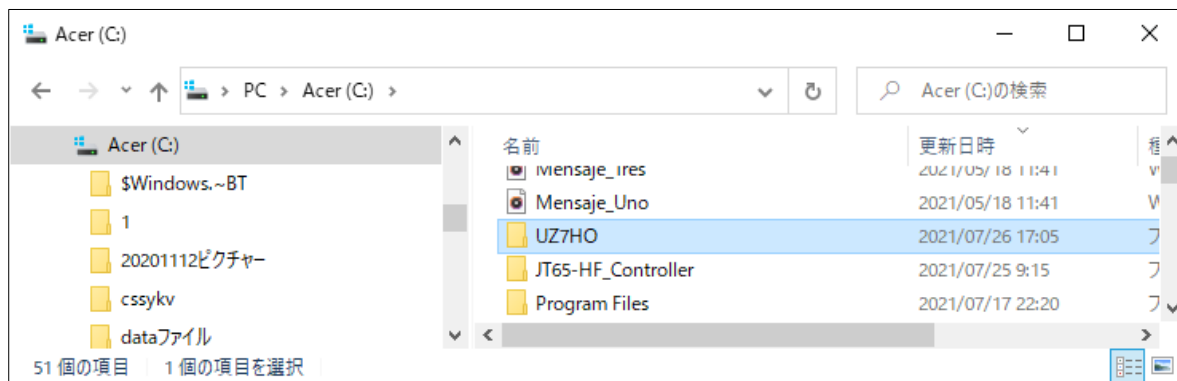


以上

● APPENDEX 4 - パケット用プログラムのインストール

UZ7HO SoundModem と EasyTerm のインストール

初めに C:\UZ7HO フォルダを作成しておく。



<http://uz7.ho.ua/packetradio.htm> から easyterm49.zip ファイル①と soundmodem113.zip ファイル②をダウンロードします。

Applications for Soundmodem / AGW PE:		
checkers6.zip	18-Aug-16 22:01	342.94K
chess10.zip	18-Aug-16 22:02	355.82K
easyterm49.zip ①	10-Feb-21 07:12	401.73K
Soundmodem versions, manuals and utility:		
CHANGELOG.txt	10-Feb-21 07:15	9.88K
hs_soundmodem27.zip	11-Feb-21 09:15	454.19K
other-versions.zip	22-May-21 12:02	6.99M
ptt-dll.zip	30-Oct-19 22:39	247.22K
soundmodem113.zip ②	11-Feb-21 09:14	465.15K
user_guide_v045b_FR.pdf	11-Oct-13 19:13	333.12K
user_guide_v105_EN.pdf	03-Dec-19 18:01	504.65K
utils.zip	28-Feb-15 04:59	68.21K

両方のプログラムを初めて実行するときは、それぞれの設定が必要です。Windows エクスプローラーで C : \ UZ7HO を開き、soundmodem.exe と Term.exe をダブルクリックして起動します。

パブリッシャーを確認できなかったというセキュリティ警告が表示された場合は、[実行]をクリックします

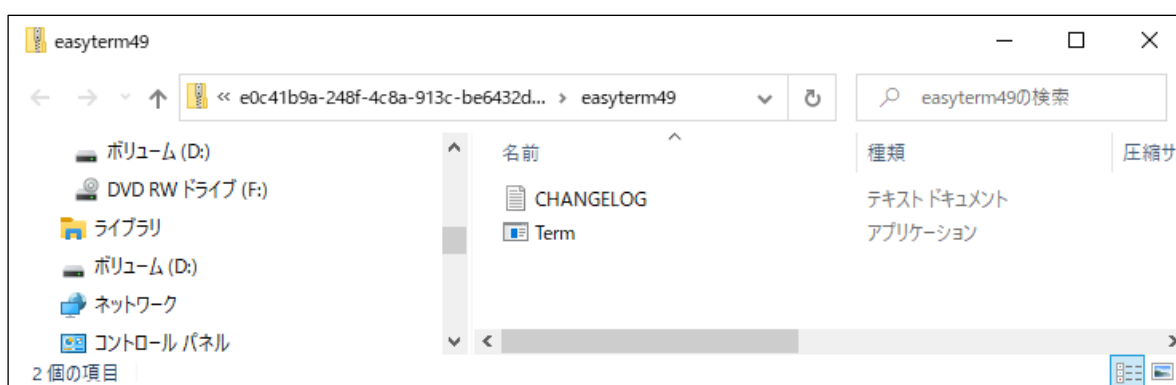
Windows ファイアウォールが一部の機能をブロックしているというセキュリティアラートが表示される場合があります。「パブリック」のチェックを外し、「プライベート」ネットワークのチェックを外します。「アクセスを許可する」をクリックします。

Easyterm49:インストール

<http://uz7.ho.ua/packetradio.htm> の easyterm.zip をクリックして画面左下に表示される「開く」をクリックする。

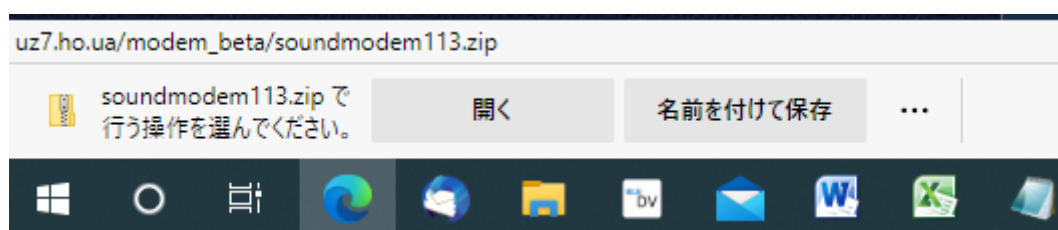


するとそれが解凍されて EasyTerm49 というフォルダーが開いたら実行ファイル Term.exe が出来ているのでそれをコピーして先ほど作った C:\UZ7HO に張り付ける。

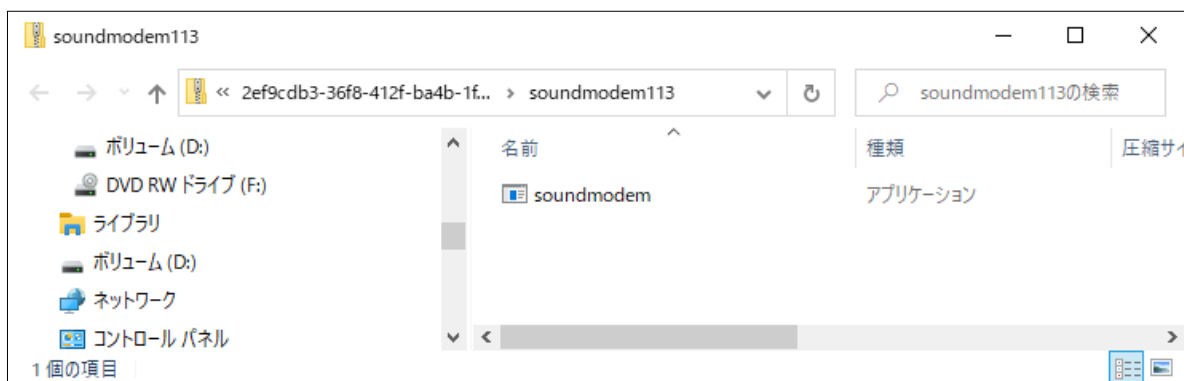


Soundmodem113:インストール

<http://uz7.ho.ua/packetradio.htm> の soundmodem113.zip をクリックして画面左下に表示される「開く」をクリックする。

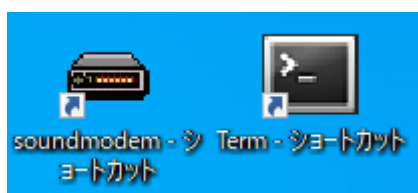
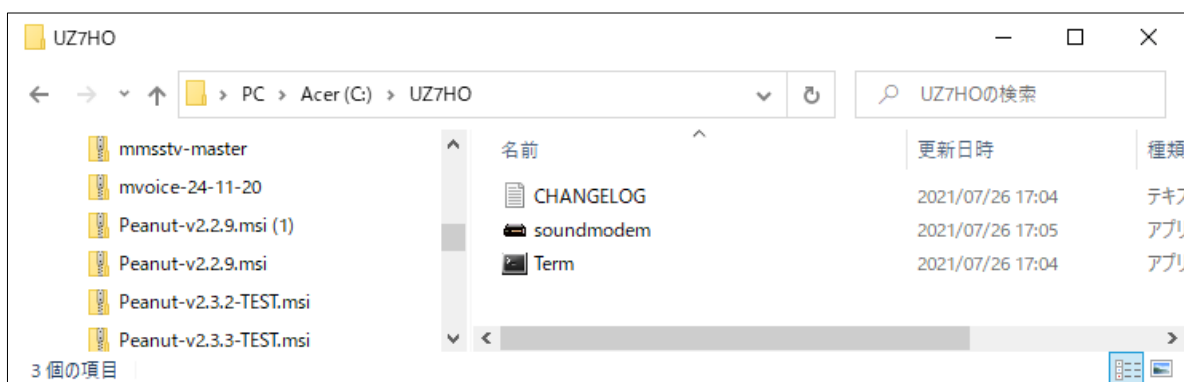


するとそれが解凍されて soundmodemu113 というフォルダーが開いたら実行ファイル soundmodem.exe が出来ているのでそれをコピーして先ほど作った C:\UZ7HO に張り付ける。



ショートカットアイコンを作る

デスクトップに Soundmodem.exe と EasyTerm.exe のショートカットアイコンを作る。



後でソフトウェアが不要になった場合は、C:/UZ7HO フォルダーを削除するだけで、ソフトウェアは削除されます。

SoundModem:設定

作成したショートカットアイコンをクリックして SoundModem を起動する。

Devices:

"Settings"、"Devices"の順にクリックし、"Output devices"と"Input devices"に APENDEX 4

でインストールした仮想サウンドカード (VB-CABLE Virtual AUDIO)が選択されていること。

"Single channel output" にチェックマークがあること、⇒ "AGWPE Server Port " の値は 8000 で Enabled にチェックマークがあること。

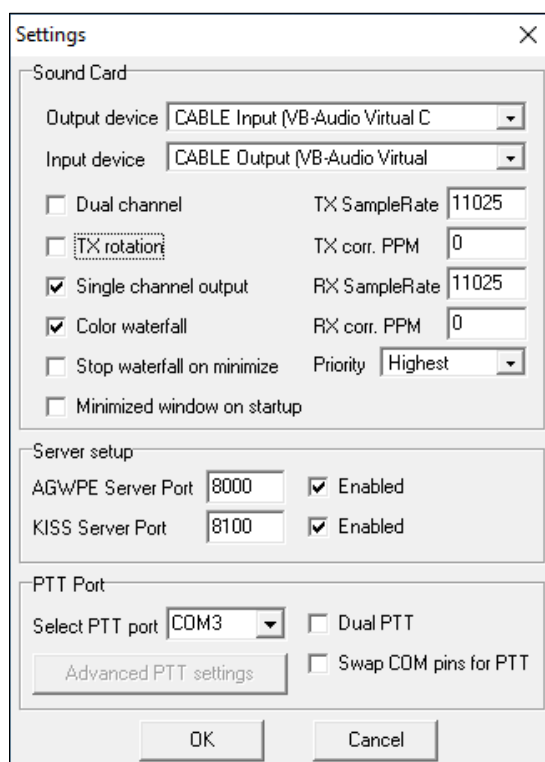
「WinlinkExpress などの KISS と通信する」別のプログラムを使用する場合を除いて、"KISS Server Port"「KISS サーバーポート」は重要ではない。

"Color waterfall"にチェックマークを入れると、音声入力レベルの設定が簡単になります。

"Stop waterfall on minimize"にチェックマークを入れると、CPU 使用率が下がるそうです。

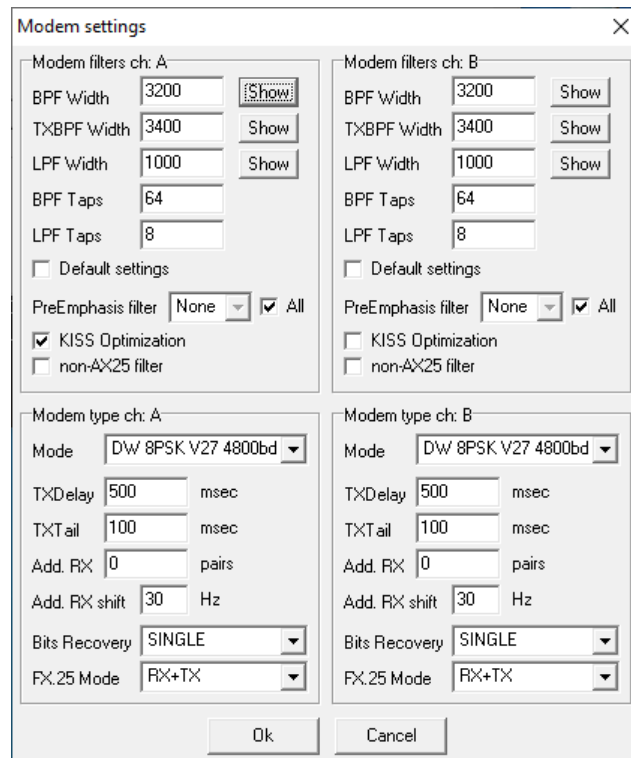
"Select PTT Port"は Appendix3 でインストールしたバーチャル COM ポートの番号の若い方を設定します。（私の場合は COM3 ですがこのポート番号は各自異なる）。

"Dual PTT"のチェックを外す ⇒ 次に「OK」をクリック。

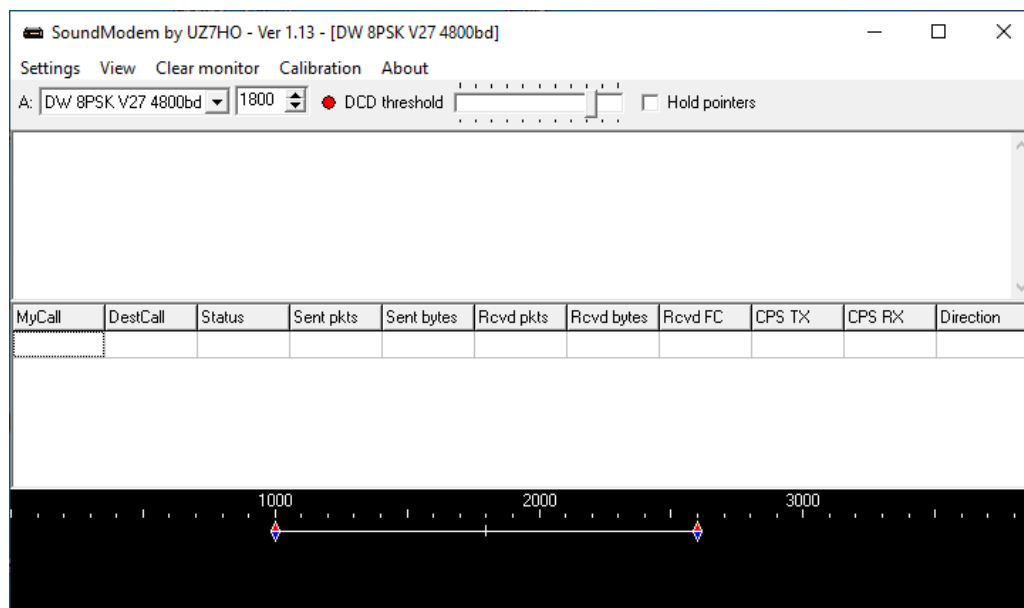


Modem:

"Settings"、"Modem"の順にクリックし、⇒ "Default settings"にチェックマーク。"KISS Optimization"（KISS 最適化）と"non-AX25 filter"（非 AX25 フィルター）を確認してください。次に「OK」をクリックします



Peanut のパケットの Mode は「DW 8PSKV274800bd」を使用します。

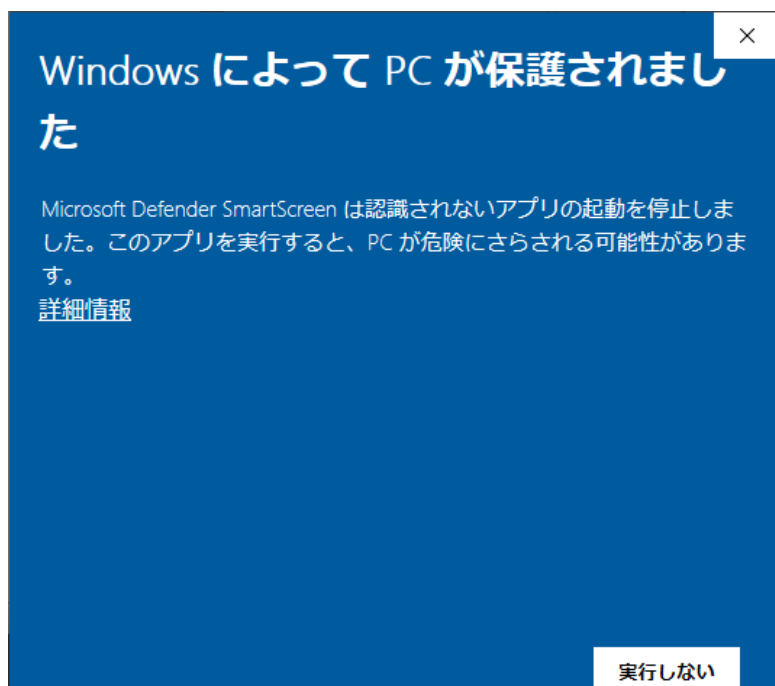


変更を有効にするには、SoundModem を閉じてから再起動する必要があります。

EasyTerm:設定

作成したショートカットアイコンをクリックして Term を起動する。

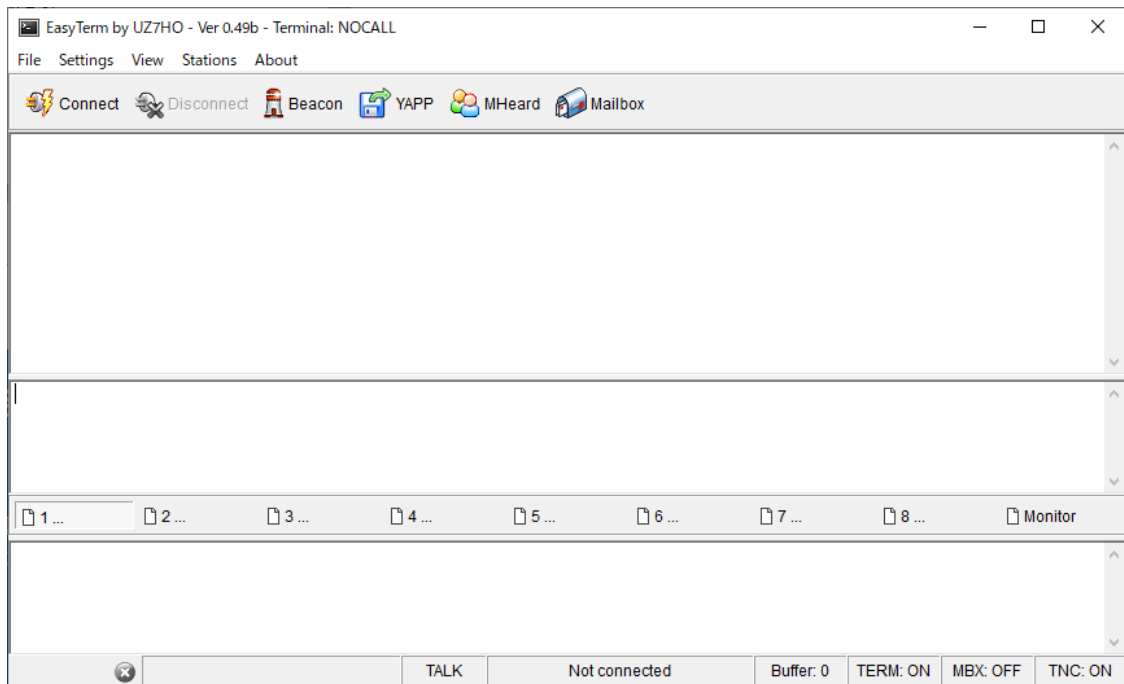
その時次のような画面がポップアップしたら「詳細情報」をクリックする。



すると次のような画面がポップアップするので「実行」をクリックする。



次にポップアップする画面で、"Settings"、"Station Setup"の順にクリックする。



そして Station Setup 画面で Terminal Callsign に自分のコールサインを入力します。TNC セットアップにはすでに"Host"(ホスト)127.0.0.1 が含まれているはずです。 "Port"（ポート）が 8000 であることを確認します。現時点ではビーコンを使用しないので、その部分は無視して「OK」をクリックします。

Station Setup

Terminal Callsign

JA3GQJ

Mailbox Callsign

Beacon Setup

Destination

BEACON

Digipeaters

Interval

10

Min. (Info in beacon.txt)

Ports

1

(Separated with comma)

TNC Setup

Host

127.0.0.1

Port

8000

PacLen

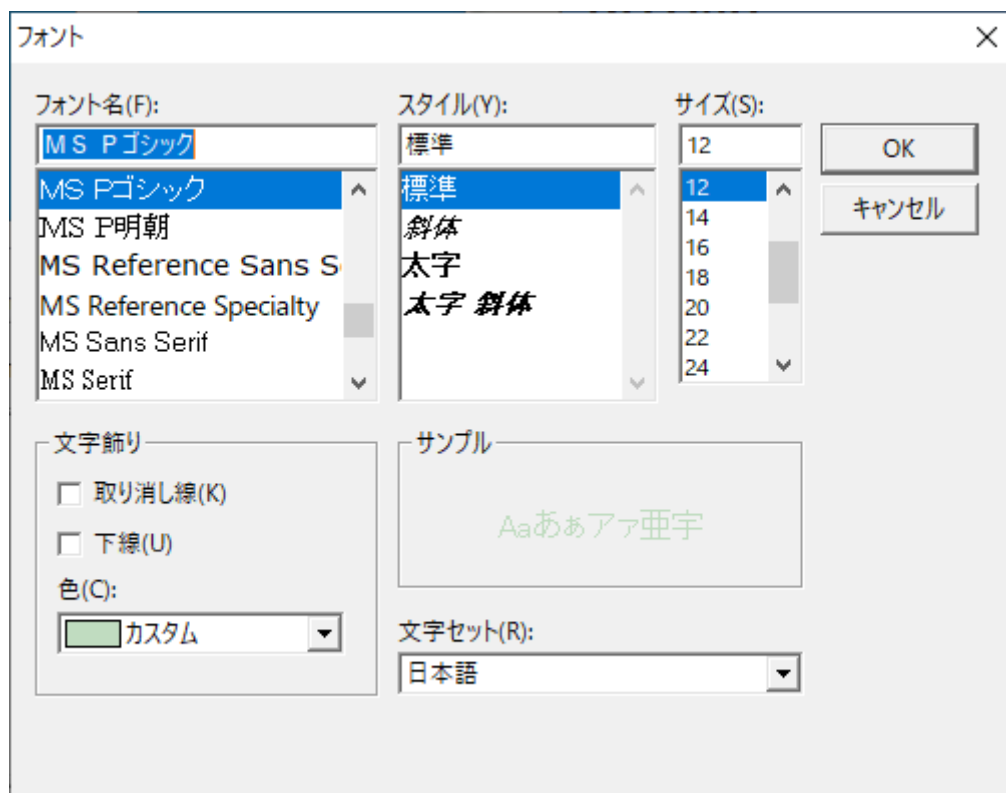
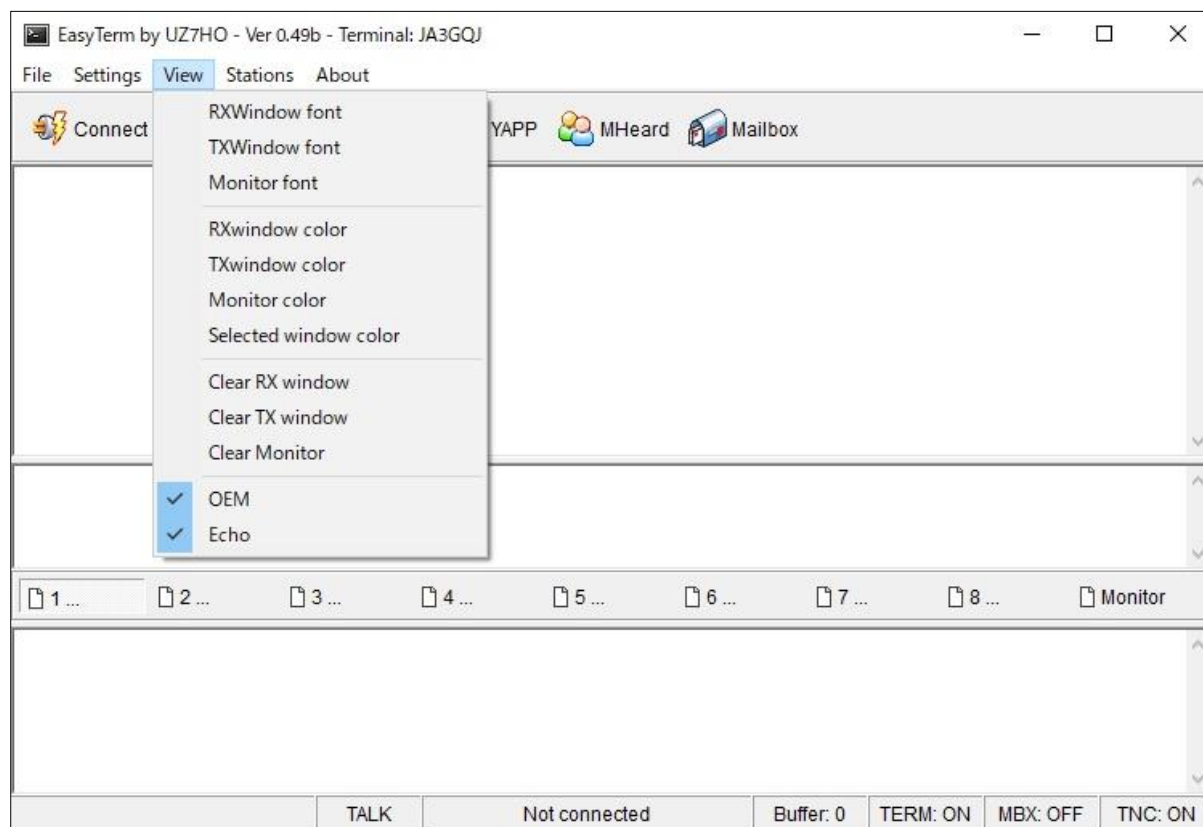
80

OK

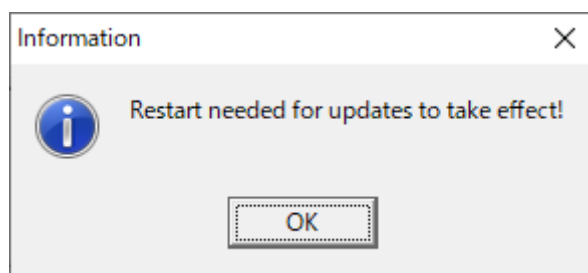
Cancel

和文対応フォントの設定

ソフトのデフォルトは欧文対応フォントなので、View タグを開いて RXWindow font、TXWindow font、Monitor font を MS ゴシック等和文対応フォントに設定をします。

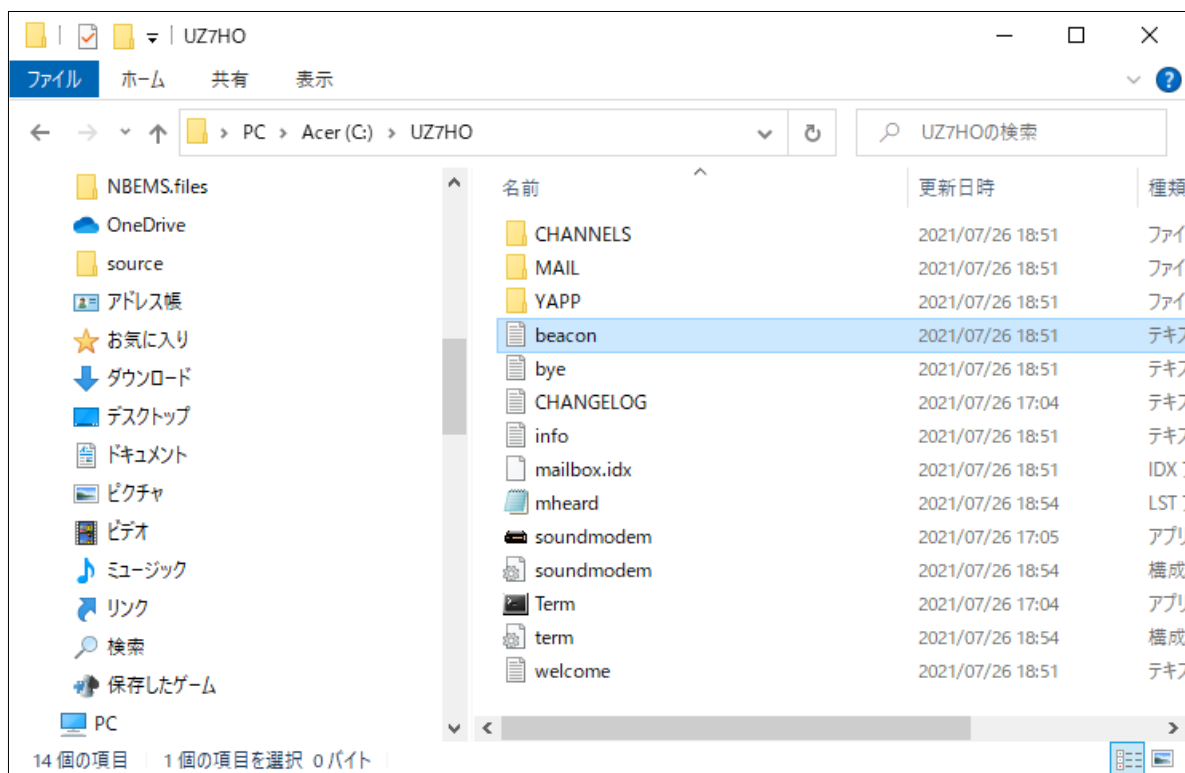


変更を有効にするには、EasyTerm を閉じてから再起動する必要があります。



この時点で、両方の新しいプログラムが実行されているはずです。

そして、C:\UZ7HO フォルダには先ほど設定したファイルなど新しいファイルが生成されています。



SoundModem については次の URL の詳しい説明書を参考にしました。

http://uz7.ho.ua/modem_beta/user_guide_v105_EN.pdf

以上